

Title	西ドイツ刑法学の現状(追録VI)
Sub Title	Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (6. Ergänzung)
Author	宮澤, 浩一 (Miyazawa, Koichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1982
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.55, No.11 (1982. 11) ,p.83(60)- 142(1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19821128-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料

西ドイツ刑法学の現状 (追録Ⅵ)

宮澤 浩 一

追録Ⅵのためのまえがき

① 法学研究53巻10号に発表した追録Ⅴ〔これは、宮澤編・西ドイツ刑法学、成文堂、1978年の追録Ⅱである〕に続いて、ここに「追録Ⅵ」を発表する。1981年末までに公刊された著書・論文を整理し、著者ごとに、補訂を加えた。さらに、編者が気づかなかつたために、これまで採録していなかつた文献をも、適宜、補完した。今回も、新たに、13名の研究者の略歴と業績を加えた。

本書と追録とは、西ドイツの現代刑事法学を研究するための有用な手引き書と認められ、ヨーロッパのドイツ語圏の諸国をはじめ、ドイツ刑法学に関心をもつ学者や実務家の間に、一種のエンサイクロペディアとしての評価が定着したように思われる。事実、多くの刑法学者の書齋はもとより、殆んど大学の刑事法研究所の書庫、図書室、演習室に必ずといってよいほど、此のビブリオグラフィーが備えてあるのを実際にみてきた。興味のあることに、西独各州の文部省にも、此の本は置かれ、刑事法の新任人事が検討される場合、当該候補者の業績、学会での位置づけを確認するのに利用されているということを耳にする。そのためもあつてか、多くの学者、殊に、若手の学者から、論文の抜刷、著書が送られてくる。文献整理の仕事の過程で、新しく教授資格を取得したと思われる人の業績を見つけた場合、その人について詳しい調査をし、大体の著作目録を作成したうえで、連絡をとると、殆んどの人々から直ちに返事がくる。今回新たに採録した大部分の人も回答を寄せてくれた。なお、ベーレント、ポトツケ、クラッチェの三人については、アウグスブルク大学のヘルマン氏、ギェンターについては、トリエー大学に留学中であつた日高義博氏の協力でデータを蒐集しえた。

② この文献目録の意義は、ヨーロッパの学者仲間の間で、広範に認められているといつて良いであろう。前回の追録でも2~3あげておいたが、多くの学者や実務家の手になる書評が各種の雑誌に出ている。Juristenzeitung (W. Küper: 1980, S. 828), Juristische Rundschau (H. Tröndle: 1981, S. 219 f.) のほか、Revue de Droit Pénal et de Criminologie (M.A.: 1980, p. 938 f.) のものもその後、見つけた書評である。姉妹編のゲリヒツザールや

スイス刑法雑誌に対しても、同じように多くの好意的な書評が寄せられている。おそらく、刑法学を比較しながら考えるという仕事が時間と根気のいる研究分野に属することを充分に理解している人々が、このような基礎的な研究に本格的に取り組んでいる編者の学問的姿勢に、共感してくれているからであろう。私の立場から言えば、この仕事の意義が本当に分り、かつ率直に評価出来る人は、それだけで、本気で学問に取り組んでいる人であると評することができると思うし、事実、その通りである。そういう真面目な研究者に対して、私自身の持つている西ドイツをはじめとするヨーロッパの刑事法学に関する情報を正確に伝えるべく、今後も努力を続けたいと思う。本資料は、もはや、日本の読者のための本という性格を脱却して、刑事法に関心を持つ欧米の研究者のための共有財産となつたと言える。此の種のビブリオグラフィの場合、此の仕事を根底から動揺させるか、全く別の角度から内容的にこれを克服するだけの実質を備えたものを提供する新著が現われないう限り、本書は、今後も西ドイツ刑法学の現状を伝える世界で唯一の標準的なビブリオグラフィとして存在を誇りつづけることになる。多くの西ドイツの専門家仲間が言うように、刑事法関係の本の中で、最も頻繁に利用され、頼りにされている本の一つであるからには、常に怠りなく、最新の情報を送り、しかも内容的に正確を期したく思う。

③ 今回も又、私自身の手で、カードの作成、原稿化、内容のチェック、多くの著者との連絡など、すべてを行なった。しかし、おそらく、次回からは、此の仕事を引き継ぐ若手の協力をうることになると思う。もつとも、刑事法関係の新刊書をすべて入手し、内容を分析し、さらに、ひと月に二回、資料室にこもり、必要な雑誌を全部、チェックし、重要と思われる論文をすべてコピーし、それを項目別に分類し、内容を点検し、必要な事項をメモにとるという作業を続けることによつて、学問の進展全体を展望するという私の楽しみは、極めて大きな知的刺激を享受する時間であるから、協力者がたとえ現われたとしても、この学問的な作業を放棄する気にはなるまい。

④ 今回、13名の学者について、新たに記事を書くが、このうち、パイネ (Reinhard Beine) は新人ではない。労働法と交通法の部門で一家をなした行政官で、ケルン大学においてその知見を教授する機会をもつた人であつた。この人について、これまで調査がゆき届かなかつたので、今回、補完したい。

その他の12名は、いずれも若い世代に属し、その年齢関係は、33歳から45歳にわたり分布している。その出身大学の系統をみると、ビーレフェルト大学系がブルクハルトとキューール、ポッフム大学系がベルツとギェンター、フライブルク大学系がペーレントとステファン、ケルン大学系がクラッチュとモイラーであり、他は、ポトク (ミュンヘン)、ヒレンカンブ (ゲッティンゲン)、ゼーボーデ (ヴェルツブルク)、チャーリンスキー (ボン) である。このように、いろいろな大学で、それぞれ異なつた学問傾向、風土で育つた研究者が互いに競争をしているところに、学問の進展という見地からみて、好ましい状況があると思う。学問の中央集権化は、知的墮落をもたらすからにはかならない。

⑤ 西ドイツ刑法学の研究を通じて、フライブルクのマックス・プランク・外国・国際刑法研究所の鄭鐘勛教授と知り合い、その学識はもとより、すぐれた人格に魅せられ、これまで機会あるごとに学問的・人間的に交流をしてきた。お互いに、東洋に生まれ、欧米の法思想、学問について深く傾倒したという体験を共通にし、しかも、それぞれ自国の法制度、法的現実を外国に伝えるという仕事に従事していたので、次第に、学問的な連帯を深めつつあった。しかし、同氏は不幸にして病に倒れ、同氏を知る多くの人々の祈りも空しく、本年6月23日、遂に他界された。生前、何かにつけて、研究上、便宜をはかつて頂いたことを思い、同氏を失なつた事実の重みをかみしめている。

前回の追録では、シュワルム (1979年9月2日) と H・マイヤー (1980年4月9日) という二人の大家の死去を伝えた。今回は、ジーヴァーツ (1980年4月28日)、ヒルデ・カウフマン (1981年1月10日)、ホーニッヒ (1981年2月25日)、ヘンケル (1981年2月28日) の死去の知らせとともに、バックマン (1981年11月29日) とグレーピング (1982年6月3日) という二人の前途有為な研究者の急死の事実を伝えねばならない。ヒルデ・カウフマンとともに、また、刑法学は多くの仕事を期待しえただけに、惜しいことである。

Vorbemerkung

In das vorliegende 6. Ergänzungsheft wurden folgende Herren neu aufgenommen: Hans-Joachim Behrendt (Freiburg), Reinhard Beine (Köln), Ulrich Berz (Gießen → Bochum), Wilfried Reinhold Bottke (München), Björn Burkhardt (Bielefeld → Tübingen → Göttingen), Hans-Ludwig Günther (Bochum → Trier → Bonn), Thomas Hillenkamp (Göttingen → Bonn → Osnabrück), Dietrich Kratzsch (Köln), Kristian Kühl (Bielefeld → Erlangen), Dieter Meurer (Köln → Marburg), Manfred Seebode (Würzburg → Fachhochschule Münster), Egon Stephan (Freiburg → Trier), Diethart Zielinski (Bonn → Hannover). Die meisten der genannten Kollegen haben mir bei dem Zustandekommen dieser Ergänzung geholfen. Ihnen allen danke ich bestens.

Für die freundlichen Mitteilungen in bezug auf die persönlichen Daten mit wissenschaftlichen Angaben ist der Verfasser den Herren Kollegen Joachim Herrmann, Augsburg, und Yoshihiro Hidaka, Tokyo-Trier, zu Dank verpflichtet.

Die 1980 und 1981 erschienene Literatur wurde berücksichtigt. Daneben sind ältere Titel, die dem Verfasser im Laufe der Materialsammlung bekannt wurden, neu aufgenommen.

Alle Personen sowie ihre gesamten Schriften sind durchgehend nummeriert. Die Buchstaben a, b usw. verweisen auf neu aufgenommene Person bzw. nachträglich ergänzte Schriften. Nummern ohne Zusatz beziehen sich auf die entsprechende Stelle in der Biblio-

graphie „Die deutsche Strafrechtswissenschaft“ von Koichi Miyazawa, Tokio, 1978.

Für Hinweise auf Berichtigungen bzw. Ergänzungen dankt der Verfasser im voraus.

1. アッヘンバハ (Hans Achenbach)

論文 (Aufsätze)

12. Kriminalpolitische Tendenzen in den jüngeren Reformen des Besonderen Strafrechts und des Strafprozeßrechts. JuS 1980, S. 81 ff.
13. Vorläufige Festnahme, Identifizierung und Kontrollstelle im Strafprozeß. JA 1981, S. 660 ff.

2. アメルンク (Knut Amelung)

著書 (Buch)

12. Die Einwilligung in die Beeinträchtigung eines Grundrechtsgutes. Eine Untersuchung im Grenzbereich von Grundrechts- und Strafrechtsdogmatik, 1981.

論文 (Aufsätze)

11. Amelung — Pauli, Einwilligung und Verfügungsbefugnis bei staatlichen Beeinträchtigungen des Fernmeldegeheimnisses i. S. d. Art. 10 GG. MDR 1980, S. 801 ff.
12. Amelung — Ch. Tyrell, Zur Behandlung des Rechts am eigenen Bild in der neueren strafrechtlichen Rechtsprechung. NJW 1980, S. 1560 f.
13. Strafrechtswissenschaft und Strafgesetzgebung. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 19 ff.

3. アルツト (Gunther Arzt)

引退したハンス・シュルツの後継者として、1981年夏学期に、ベルン大学教授となった。

SS 1981 o. Prof. Bern als Nachfolger von Hans Schultz.

著書 (Bücher)

- 7a. Arzt — Weber, Strafrecht. Besonderer Teil. H. 1: Delikte gegen die Person. 2. Aufl., 1981.
8. Arzt — Weber, Strafrecht. Besonderer Teil. H. 4: Wirtschaftsstraftaten, Vermögensdelikte (Randbereich), Fälschungsdelikte. 1980.

論文 (Aufsätze)

- 17a. Ignorance or Mistake of Law. Am. J. Comp. L., 24. vol., 1976, p. 646 ff.
26. Zur Garantenstellung beim unechten Unterlassungsdelikt. JA 1980. S. 553 ff., 647 ff., 712 ff.

27. Aktuelle Problematik der Tatbestandsmerkmale des Mordes nach deutschem Recht. Tötungsdelikte. KrimGegFr. Heft 14, 1980, S. 49 ff.
28. Probleme der Kriminalisierung und Entkriminalisierung sozialschädlichen Verhaltens. Krim 1981, S. 117 ff.
29. Die Hehlerei als Vermögensdelikt. NStZ 1981, S. 10 ff.
30. Der Einfluß von Beweisschwierigkeiten auf das materielle Strafrecht. Strafrechtl. Probleme der Gegenwart. Heft 8, 1981, S. 77 ff.

5. バックマン (Leonhard Backmann)

1981年11月29日に急死した。

Verstorben am 29. November 1981.

論文 (Aufsätze)

- 4a. Des Doctor Nicolaus Hyeronymus Gundling „Erörterung etlicher Fragen, so bey der Nothwehr vorkommen“. MDR 1973, S. 200 f.
8. Strafbarkeit des vor Tatbeginn zurückgetretenen Tatbeteiligten wegen vollendeter Tat? JuS 1981, S. 336 ff.

6. バウマン (Jürgen Baumann)

著書 (Buch)

28. Entwurf eines Untersuchungshaftvollzugsgesetzes. 1981.

論文 (Aufsätze)

134. Die Sozialtherapie hat sich bewährt! Ein Beitrag für das Inkrafttreten der Maßregel. MSchrKrim 1979, S. 317 ff.
135. Über die Denaturierung eines Rechtsinstituts (§ 59 StGB). JZ 1980, S. 464 ff.
136. Mitbestimmung von Gefangenen über die Aufnahme in bestimmte Anstaltsbereiche? MSchrKrim 1980, S. 322 ff.
137. Fehlende Rechtsgrundlage bei ärztlicher Zwangsbehandlung Untergebrachter. NJW 1980, S. 1873 ff.
138. Strafvollzug und Öffentlichkeit. Der Anstaltsbeirat als Garant eines transparenten Strafvollzugs. Auftrag und Verantwortung der Anstaltsbeiräte. 1980, S. 19 ff.
139. Die Auseinanderentwicklung der Prozeßrechte dargestellt am Beispiel der Verschwiegenheitspflicht bei der Zeugenvernehmung (§§ 383 Abs. 3 ZPO, 53 StPO). Festschr. f. F. Baur, 1981, S. 187 ff.
140. J. Bauman — J. D. Hoppe, Pro und contra: Koordinierter Hungerstreik. Gebot der Menschlichkeit. Die Neue Bonner Depesche 1981, 5, S. 14 f.

6a. ベーレント (Hans-Joachim Behrendt)

1937年9月25日に、マクデブルクに生れた。ゲッチンゲンとフライブルクで法学を学び、1965年に1年間、コロンビア大学に留学した。1969年に、イエシュックのもとで学位を取得し (Vorsatz im englischen und amerikanischen Strafrecht, 1969), その後、シモン教授の助手となる。1969年から72年にかけて、財務局に勤務し、その後、フライブルク大学助手、73年に、Akademischer Rat, 1974年に Akademischer Oberrat となつた。その間、同大学の精神分析ゼミナールで研究をした。1981年に、教授資格を取得した。Affekt und Verschulden (unveröffentlicht). Habil. Freiburg.

Geboren am 25. September 1937 in Magdeburg. Nach dem Jura-Studium in Göttingen und Freiburg, Studienaufenthalt an der Columbia Universität für den Jahrgang 1965. Promotion bei H.-H. Jescheck 1969. Wissenschaftlicher Assistent am Institut für öffentliches Recht bei W. von Simon. 1969—1972 Finanzverwaltung in Hamburg. Im WS 1972/73 Assistent an der Rechtswissenschaftlichen Fakultät Freiburg, 1973 Akademischer Rat, 1974 Akad. Oberrat. Seit Anfang 1973 psychoanalytische Ausbildung am Psychoanalytischen Seminar Freiburg. Habilitation Juli 1981.

著書 (Buch)

1. Die Unterlassung im Strafrecht. Entwurf eines negativen Handlungsbegriffs auf psychoanalytischer Grundlage, 1979.

論文 (Aufsätze)

1. Einführung in die strafrechtliche Praxis. Bericht und Reflexion über eine exemplarische Unterrichtsveranstaltung. Teile A und B. JA 1975, S. 227 ff.
2. Lernprogramm Strafrecht (Allgemeiner Teil). Erfahrungen mit einem von Prof. Dr. D. Kienapfel entwickelten neuartigen Unterrichtswerk. JR 1975, S. 190 ff.
3. Strafrecht und Psychoanalyse. Vorüberlegungen zu einer psychoanalytischen Strafrechtstheorie. Freiburger Universitätsblätter Heft 58, 1977, S. 73 ff.

6b. バイネ (Reinhard Beine)

1906年6月24日に、ビーレフェルトで生まれた。1931年と35年に第一次、第二次国家試験に合格して司法官となり、労働事件を手がけ、その業績が認められて1942年に、ベルリンのライヒ労働省参事官となり、労働行政を担当した。勤務のかたわら、ハルレ大学の労働法研究室の助手となつた。1943年に、ヘルンシュル教授のもとで学位を取得した。Die rechtliche Stellung des Leiharbeiters である。

第二次大戦後に、ノルトライン・ウェストファーレン州の使用者団体を主宰したが、1955年に、同州の労働・交通省の参事官となり、1971年の定年まで、局長をつとめた。

戦後の関心事は交通政策と交通法であり、1965年に、ケルン大学の時間講師を兼任し

た。1972年には、同大学の名誉教授に任命され、今日に至っている。

Geboren am 24. Juni 1906 in Bielefeld. Nach seinem Jura-Studium zuerst Justizdienst, dann Regierungsrat im Reichsarbeitsministerium, nebenamtlich Assistent am Institut für Arbeitsrecht an der Martin Luther-Universität Halle-Wittenberg.

Promotion bei Wilhelm Herschel 1943. Nach dem Weltkrieg 1945 zuerst Geschäftsführer eines Arbeitsgeberverbandes im Land Nordrhein-Westfalen, dann 1955 Ministerialdirigent im Ministerium für Wirtschaft, Mittelstand und Verkehr. Im Jahre 1965 Lehrauftrag für Verkehrsstrafrecht an der Universität zu Köln, 1972 Honorarprofessor dort.

主要な著作は、次の通りである。

著書・共著 (Bücher)

1. Das Recht des Handelsvertreters, 1940.
2. Die rechtliche Stellung des Leiharbeiters, 1943 (Diss. Halle)
3. Ausgleichs- und Schiedsverfahren in Arbeitsstreitigkeiten, 1948.
4. R. Beine — W. Herschel — Buchwald, Handbuch zum Recht des Handelsvertreters, 1954.
5. Lippe, Wirtschaft und Kultur, 1955.
6. Kommentar zum Luftverkehrsgesetz, 1966.
7. Die rechtlichen Maßstäbe bei der Beurteilung der Eignung zum Führen von Kraftfahrzeugen und die Aufgaben der Sachverständigen, 1972.
8. Rechtsfragen der Verkehrssicherungspflicht bei öffentlichen Straßen, 1973.

論文 (Aufsätze), 抜萃 (Auszug)

1. Verkehrsunfälle und Verkehrssicherungspflicht. Schiene und Straße, 1957, S. 143 ff.
2. R. Beine — Lohmann, Ein Beitrag zum Planstellungsverfahren nach dem Luftverkehrsgesetz in der Fassung vom 10. Januar 1959. ZSchr. f. Luftrecht und Weltrechtsfragen 1965, S. 103 ff.
3. Die Regelung des Straßenverkehrs in europäischen Ländern. Polizei in Europa 1966, S. 67 ff.
4. Recht des Eisenbahnverkehrs, Straßenverkehrs, Rohrleitungsverkehrs und kombinierten Verkehrs. Verkehrswissenschaftliche Arbeit in der Bundesrepublik Deutschland 1969, S. 423 ff.
5. Die Bedeutung technischer Mängel am Kraftfahrzeug für die Verkehrsrechtsprechung. Der Verkehrsunfall 1975, S. 3 ff.
6. Zur Problematik der Entziehung der Fahrerlaubnis für die Führung von Kraftfahrzeugen durch die Gerichte und der Wiedererteilung der Fahrerlaubnis durch die

Verwaltungsbehörden. Festschr. f. R. Lange, 1976, S. 839 ff.

7. Entziehung und Wiedererteilung der Fahrerlaubnis. Plädoyer für die Abschaffung der Doppelkompetenz von Strafrichter und Verwaltungsbehörde. ZRP 1977, S. 295 ff.
8. Zur Reform des Rechts der Entziehung der Fahrerlaubnis unter besonderer Berücksichtigung der Grundgedanken des § 69 Abs. 2 Ziff. 2 StGB. Blutalkohol 1978, S. 261 ff.
9. Möglichkeiten und Grenzen der Sachverständigentätigkeit aus juristischer Sicht. Der Verkehrsunfall 1979, S. 24 ff.
10. Muß den Richtern die Befugnis zum Entzug der Fahrerlaubnis entzogen werden? Blutalkohol 1979, S. 343 ff.
11. Rechtsfragen bei Ablauf der Sperrfrist für die Erteilung einer Fahrerlaubnis vor Abschluß eines Rechtsmittelverfahrens. Blutalkohol 1981, S. 427 ff.
12. Ohne Sperrfrist keine Entziehung der Fahrerlaubnis. Internationales Verkehrswesen 1981, S. 206 ff.

7b. ベルツ (Ulrich Berz)

1944年2月3日に、ドルトムントで生まれた。ミュンスターとボンで法学を学び、1967年に第一次国家試験に合格の後、ポッフム大学のクラマー教授の副手となり、勤務のかたわら研究を続け、1971年に学位を取得した。Rechtskraft und Sperrwirkung im Ordnungswidrigkeitenrecht, 1971 (Maschinenschrift)。1972年に、ポッフム大学助手となり、翌73年に、クラマー教授とともに、ギーセン大学に移つた。

1979年に、Formelle Tatbestandsverwirklichung und materialer Rechtsgüterschutz – Eine Untersuchung zu den Gefährdungs- und Unternehmensdelikten (未公刊) により教授資格を取得し、1980年5月にギーセン大学教授に任命され、1981年8月に、ポッフム大学教授に招聘され、赴任した。

Geboren am 3. Februar 1944 in Dortmund. Nach dem Jura-Studium in Münster und Bonn, wissenschaftliche Hilfskraft bei Peter Cramer 1967, Promotion bei ihm 1971, wissenschaftlicher Assistent 1972. Ab August 1973 wissenschaftlicher Assistent an der Univ. Gießen. Oktober 1974 Dozent dort, Habilitation bei Cramer Dezember 1979. Im Mai 1980 Professor für Strafrecht an der Univ. Gießen, August 1981 Professor an der Ruhr-Universität Bochum.

論文 (Aufsätze)

1. Die Bedeutung der Sittenwidrigkeit für die rechtfertigende Einwilligung. GA 1969, S. 145 ff.
2. Die Grenzen der Nötigung. OLG Hamburg NJW 1968, 622. JuS 1969, S. 367 ff.

3. Die Sperrwirkung staatsanwaltschaftlicher und behördlicher Einstellungen nach dem OWiG. Jur. Anal. 1971, S. 285 ff.
4. Kompetenzprobleme bei der „zweispurigen“ Verfolgung von Ordnungswidrigkeiten. ZVO 1972, S. 246 ff.
5. Das Verfolgungshindernis der Verwarnung mit Verwarnungsgeld. ZVO 1972, S. 328 ff.
6. Unfallflucht nach vorsätzlicher Tat. JuS 1973, S. 558 ff.
7. Der Urteilstenor bei Zusammentreffen von Strafen und Ordnungswidrigkeiten. ZVO 1973, S. 262 ff.
8. Zur rechtlichen Problematik der Kennzeichenanzeigen. DAR 1974, S. 197 ff.
9. Zur Auslegung des § 142 StGB. DAR 1975, S. 309 ff.
10. Zum Vorrang an Engstellen. DAR 1976, S. 147 ff.
11. Das Erste Gesetz zur Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. BB 1976, S. 1435 ff.
12. Die Geldstrafenregelung in Strafsachen. Neue Wirtschafts-Briefe 1976, S. 863 f.
13. Das Verkehrszentralregister. Neue Wirtschafts-Briefe 1976, S. 1159 ff.
14. Die neuen Strafvorschriften über den Schwangerschaftsabbruch. Neue Wirtschafts-Briefe 1976, S. 1667 f.
15. Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. Neue Wirtschafts-Briefe 1976, S. 2203 ff.
16. Ahndung von Geschwindigkeitsüberschreitungen. Neue Wirtschafts-Briefe 1977, S. 655 ff.
17. Das Verfahren gegen Verkehrsordnungswidrigkeiten. Neue Wirtschafts-Briefe 1977, S. 2034 ff.
18. Grundzüge der Straßenverkehrs-Zulassungs-Ordnung. Neue Wirtschafts-Briefe 1977, S. 2539 ff.
19. Zur Reform der Nebenklage. DAR 1978, S. 1 ff.
20. Die Diskussionsbeiträge der Strafrechtslehrertagung 1977 in Gießen. ZStrW Bd. 90, 1978, S. 210 ff.
21. Änderungen im Schadensersatzrecht. Neue Wirtschafts-Briefe 1978, S. 33 ff.
22. „Berechtigtes“ und „entschuldigtes“ Verlassen der Unfallsstelle. Jura 1979, S. 125 ff.
23. Wie kann die Maßregel der Entziehung der Fahrerlaubnis für die Praxis verbessert werden? 18. Verkehrstag 1980, S. 305 ff.
24. Grundfragen der Hehlerei. Jura 1980, S. 57 ff.

8a. ブランケンブルク (Erhard Rudolf Blankenburg)

編著 (Buch)

8. Blankenburg — Fiedler, Die Rechtsschutzversicherungen und der steigende Geschäftsanfall der Gerichte. 1981.

論文 (Aufsätze)

12. Rechtshilfe als Instrument der Interessendurchsetzung sozial Schwacher? Recht u. Politik, 1979, S. 204 ff.
13. Die Bundesrepublik Deutschland : Unterentwickelt in Sachen Rechtsberatung. Recht u. Politik, 1979, S. 214 ff.
14. Rechtsberatung als Innovationsanstoß für die Rechtspflege. ZRP 1980, S. 137 ff.
15. Empirische Rechtssoziologie und Strafrechtsdogmatik. Die Beliebigkeit von Ergebnissen empirischer Sozialforschung für die strafrechtsdogmatische Diskussion. Am Beispiel der von Juristen geführten Debatte zum Ladendiebstahl. Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 396 ff.
16. Zur Implementation des Beratungshilfegesetzes. Recht u. Politik, 1981, S. 84 ff

8. ブラウ (Günter Blau)

論文 (Aufsatz)

- 61a. Kustodiale und antikustodiale Tendenzen in der amerikanischen Kriminalpolitik. GA 1976, S. 33 ff.

10. ボッケルマン (Paul Bockelmann)

著書 (Buch)

- 14a. Strafrecht. Besonderer Teil 3. Ausgewählte Delikte gegen Rechtsgüter der Allgemeinheit, 1980.

論文 (Aufsätze)

- 73a. Handlungsbegriff aus juristischer Sicht. Die Medizinische Welt, 1972, S. 1310 ff.
83. Der ärztliche Heilangriff in Beiträgen zur Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft im ersten Jahrhundert ihres Bestehens. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 105 ff.

11. ベーム (Alexander Böhm)

論文 (Aufsätze)

- 18a. Rückfall und Bewährung nach verbüßter Jugendstrafe. G. Deimling (Hrsg.), Sozialisation und Rehabilitation, 1973, S. 142 ff.
31. Die Reform des Jugendstrafvollzugs. Bl. f. StrVollzK 1980, H. 4, S. 1 ff.
32. Gedanken zum Arbeitsplatz, zur Auswahl, Aus- und Weiterbildung der Bediensteten des Jugendstrafvollzugs. ZfStrVo 1980, S. 3 ff.

33. Gedanken zur Rückfallprävention durch Strafvollzug. Präventive Kriminalpolitik, 1980, S. 91 ff.
34. Aus der neueren Rechtsprechung zum Jugendstrafrecht. NStZ 1981, S. 250 ff.
35. Zum Vollzug in der JVA Rockenberg. ZfStrVo 1981, S. 110 ff.

13a. ボトツケ (Wilfried Reinhold Bottke)

1947年1月23日に、ゲッティンゲンで生まれた。ミュンヘン大学で法学を学び、国家試験に合格の後、1972年から、ロクシンの助手となり、1978年に学位を取得した。

浩辭の書 Strafrechtswissenschaftliche Methodik und Systematik bei der Lehre vom strafbefreienden und strafmildernden Täterverhalten, 1979 (Diss. München) によつた。

1978年に、Akademischer Rat となり、1982年に、教授資格を取得した。Suizid und Strafrecht (Habilitation).

Geboren am 23. Januar 1947 in Göttingen. Nach dem Jura-Studium in München, bestand er zwei Staatsprüfungen. Seit dem Ende 1972 Assistent bei Claus Roxin und 1978 Promotion bei ihm. 1978 Akademischer Rat, 1982 Habilitation bei Roxin.

著書 (Buch)

1. Rücktritt vom Versuch der Beteiligung nach § 31 StGB, 1980.

論文 (Aufsätze)

1. Berufstypische Strafbarkeitsrisiken eines Bibliothekars? Mitteilungen aJbD 1979, Nr. 1, S. 1 ff.
2. Das Jugendamt als ermittelnde Jugendgerichtshilfe — ein Unding? ZBlJugR 1980, S. 12 ff.
3. Versagt unser Rechtsstaat? Buch und Bibliothek, 1980, S. 254 ff.
4. Politik und Strafrecht am Beispiel des Umweltschutzes. Politische Studien, 1980, Energie, Umwelt und Ernährung, S. 140 ff.
5. Wer kann — von wem — was — woraus — verlangen? Oder: zu den Grenzen des Anspruchsdenkens bei der Fallbearbeitung. JA 1980, S. 235 ff.
6. Zur Sicherstellung von Büchern in öffentlichen Bibliotheken (§ 94 ff., 111b ff. StPO). Mitteilungen aJbD 10, 1980, S. 1 ff.
7. Das zukünftige Umweltschutzstrafrecht. JuS 1980, S. 539 ff.
8. Rechtsprobleme bei der Auflage eines Fahrtenbuches. DAR 1980, S. 238 ff.
9. Zur Anklagepflicht der Staatsanwaltschaft. GA 1980, S. 298 ff.
10. Zur Freiwilligkeit und Endgültigkeit des Rücktrittes vom versuchten Betrug. JR 1980, S. 411 ff.
11. Bemerkungen zur Gerichtshilfe für Erwachsene. MSchrKrim 1981, S. 62 ff.

12. Euthanasie und Sterbehilfe aus der Sicht des Juristen. ZSchr. f. Evangelische Ethik 1981, S. 109 ff.
13. Strafrechtliche Aspekte des Umgangs mit den neuen Jugendreligionen. ZBJJugR 1981, S. 136 ff.
14. Strafprozessuale Rechtsprobleme massenmedialer Fahndung. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 425 ff.
15. Welchen Kurs steuert die strafrechtliche Suizidprophylaxe? Psycho 7, 1981, S. 560 ff.
16. Straf-Rechtlose Pflegekinder? § 235 StGB und seine Grenzen. ZBJJugR 1981, S. 426 ff.
17. Juristische Probleme im Zusammenhang mit den sog. neuen Jugendreligionen. Strafrechtliche Aspekte. Engstfeld et al., Juristische Probleme im Zusammenhang mit den sogenannten neuen Jugendreligionen. 1981, S. 56 ff.
14. ブラウネク (Anne-Eva Brauneck)
Glückwunsch: NN. (Quensel), Anne-Eva Brauneck zum 70. Geburtstag. MSchrKrim 1980, S. 321.
15. ブルンス (Hans-Jürgen Bruns)
著書 (Buch)
4. Leitfaden des Strafzumessungsrechts. Eine systematische Darstellung für die strafgerichtliche Praxis, 1980.
論文 (Aufsätze)
58. Zur Tragweite des Verbots der Doppelverwertung von Strafmilderungsgründen. JR 1980, S. 226 ff.
59. Inwieweit unterliegt die Mitwirkung eines als befangen abgelehnten Staatsanwalts der revisionsgerichtlichen Kontrolle — Fortentwicklung der Rechtsprechung? JR 1980, S. 397 ff.
60. Richterliche Rechtsfortbildung oder unzulässige Gesetzesänderung der Strafdrohung für Mord. Eine Besprechung des Beschlusses des Großen Senates des BGH 19. 5. 1981 — GS St 1/81. JR 1981, S. 358 ff.
61. Prozessuale „Strafzumessungsverbote“ für nicht mitangeklagte oder wieder ausgeschiedene strafbare Vor- und Nachtaten? Zur Frage der selbständigen, „gesonderten Bewertung“ oder nur „individuellen“ Berücksichtigung derartiger „Nebendelikte.“ NSTZ 1981, S. 81 ff.

15a. ブルクハルト (Björn Burkhardt)

1945年1月6日に、プラハで生まれた。ビーレフェルト大学のエーザー教授の助手をつとめ、Der „Rücktritt als Rechtsfolgebestimmung. Eine Untersuchung anhand des Abgrenzungsproblems von beendetem und unbeendetem Versuch, 1975 で学位を取得した。1975年に、エーザー教授とともにテュービンゲン大学に移り、5年間助手を勤め、Schuld und Andershandelns können (未公刊) により、1980年4月に、教授資格が与えられた。そして、同年6月に、ゲッティンゲン大学教授に招聘され、今日に至っている。

Geboren am 6. Januar 1945 in Prag, 1970—1975 wissenschaftlicher Assistent bei Eser in Bielefeld, Promotion bei ihm 1975. Im Jahre 1975 Assistent bei Eser an der Universität Tübingen. Habilitation 1980. Im gleichen Jahre Prof. an der Universität Göttingen.

論文 (Aufsätze)

1. Das Unternehmensdelikt und seine Grenzen. JZ 1971, S. 352 ff.
2. Gewaltanwendung bei Vermögensdelikten mit Bagatellexarakter. JZ 1973, S. 110 ff.
3. Zu einer restriktiven Interpretation der Treubruchshandlung. NJW 1973, S. 2190 f.
4. Die Geringwertigkeit des Weggenommenen bei Raub und raubgleichen Delikten. NJW 1975, S. 1687 f.
5. Das Zweckmoment im Schuldbegriff. GA 1976, S. 321 ff.
6. Charaktermängel und Charakterschuld. Überlegungen zu BGH NJW 1966, 1871. Lüderssen — Sack, (hrsg.), Vom Nutzen und Nachteil der Sozialwissenschaften für das Strafrecht, 1981, S. 87 ff.
7. Rechtsirrtum und Wahndelikt. — Zugleich Anmerkung zum Beschluß des BayObLG. v. 15. 10. 1980., JZ 1980, 715—. JZ 1981, S. 681 ff.
8. Überlegungen zu einer dispositionalen Deutung des Andershandelnskönnens. Analyse u. Kritik 1981, S. 155 ff.

17. カリース (Ralf-Peter Calliess)

著書 (Buch)

- 4a. Strafvollzugsrecht. 2. Aufl., 1981.

論文 (Aufsatz)

16. Strafzumessung im Spannungsfeld zwischen Strafverfahren und Strafvollzug. 4. Strafverteidigertag München 1980, S. 90 ff.

20. クラマー (Peter Cramer)

論文 (Aufsätze)

25. P. Cramer — H. Kindermann, Wege zur Reform des Schmerzensgeldanspruchs. DAR 1980, S. 33 ff.
26. OWiG-Reform auf dem Holzweg? Bemerkungen zum Referentenentwurf zur Änderung des Gesetzes über Ordnungswidrigkeiten, des Straßenverkehrsgesetzes und anderer Gesetze vom 17. 12. 1980. DAR 1981, S. 269 ff.
22. デンカー (Friedrich Dencker)
論文 (Aufsatz)
8. Vollrausch und „der sichere Bereich des § 21 StGB“. NJW 1980, S. 2159 ff.
24. エーベルト (Udo Ebert)
1980年冬学期に、マインツ大学教授となつた。
WS 1980 o. Professor Mainz.
論文 (Aufsatz)
9. Ebert — K. Kühn, Das Unrecht der vorsätzlichen Straftat. Jura, 1981, S. 225 ff.
25. アイゼンベルヒ (Ulrich Eisenberg)
著書 (Buch)
3. Minderjährige in der Gesellschaft. Über Zusammenhänge zwischen institutionalisierten Beeinträchtigungen und Delinquenz, 1980.
論文 (Aufsätze)
12. Kriminologisch bedeutsames Verhalten von Staatsführungen und ihren Organen. MSchrKrim 1980, S. 217 ff.
13. U. Eisenberg — G. Nothacker, Strafzumessungsrecht: Anwendungsprobleme des § 48 StGB (Rückfall). Jura 1981, S. 437 ff.
29. エーザー (Albin Eser)
1982年夏学期に、フライブルク大学教授となつた。
SS 1982 o. Professor Freiburg.
著書・共編 (Bücher)
13. Eser — Hirsch, Sterilisation und Schwangerschaftsabbruch. Eine Orientierungshilfe zu medizinischen, psychologischen und rechtlichen Fragen, 1980.
14. Empfiehlt es sich, die Straftatbestände des Mordes, des Totschlags und der Kindes-tötung (§ 211 bis 213, 217 StGB) neu abzugrenzen? Verh. d. 53. DJT Bd. 1, 1980, D. 1 ff.

論文 (Aufsätze)

- 20a. Justification and Excuse. Am. J. Comp. L., 24. vol., 1976, p. 621 ff.
28. Eser — Koch, Die vorsätzlichen Tötungstatbestände. Eine reformpolitisch-rechtsvergleichende Struktur- und Kriterienanalyse. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 491 ff.
29. Sterilisation in rechtlicher und rechtspolitischer Sicht. Eser — Hirsch, op. cit., 1980, S. 55 ff.
30. Schwangerschaftsabbruch: Der rechtliche Rahmen. Eser — Hirsch, 1980, S. 105 ff.
31. Beratung der Schwangeren. Rechtsgrundlagen und Rahmen. Eser — Hirsch, 1980, S. 127 ff.
32. Indikation zum Schwangerschaftsabbruch. Eser — Hirsch, 1980, S. 150 ff.
33. Sterilisation und Schwangerschaftsabbruch im Ausland. Eser — Hirsch, 1980, S. 245 ff.
34. „Heimtücke“ auf höchstrichterlichem Prüfstand: Chance einer Wende in der Mord-Rechtsprechung. Zum Vorlagebeschluss des 4. Strafsenats des BGH vom 26. 1. 1981 — 4 StR 430/80. JR 1981, S. 177 ff.
35. »Scheinwaffe« und »Schwerer Raub« (§ 250 I Nr. 2, II StGB). — Zugleich ein Beitrag zur Dogmatik des „minder schweren Falles“ —. JZ 1981, S. 761 ff.
36. Die Tötungsdelikte in der Rechtsprechung zwischen BVerfG 45, 187 und BGH-GS St 1/81. NStZ 1981, S. 383 ff., 429 ff.
37. Sterbehilfe und Euthanasie. Diskussion aus rechtlicher Sicht. Der Arzt und das Sterben, 1981, S. 9 ff.
38. Der manipulierte Tod? Möglichkeiten und Grenzen der Sterbehilfe aus rechtlicher Sicht. Sterben zwischen Angst und Hoffnung, 1981.

34. フィンケ (Martin Fincke)

論文 (Aufsatz)

21. Strafbarkeit des Retters wider Willen. Tradition und Entwicklung 1981, S. 125 ff.

37. ゲールツ (Friedrich Geerds)

著書 (Bücher)

8. Groß — Geerds, Handbuch der Kriminalistik. Bd. 2, 10. Aufl., 1978.
9. Kriminalistik, 1980.

論文 (Aufsätze)

60. Entwicklung und Formen der Jugendkriminalität. Krim 1980, S. 74 ff.
61. Ursachen der Jugendkriminalität. Krim 1980, S. 307 ff.

62. Kriminelle Ansteckung und kriminelle Nachahmung. AKrim 168. Bd., 1981, S. 1 ff.

38. ガイレン (Gerd Geilen)

論文 (Aufsätze)

31. Rechtsfragen der Euthanasie. Festschr. f. Friedrich W. Bosch zum 65. Geburtstag, 1976, S. 277 ff.

32. Zur Entwicklung und Reform der Tötungsdelikte. Bemerkungen zum Stand der Diskussion. JR 1980, S. 309 ff.

33. Notwehr und Notwehrexzeß. Jura 1981, S. 200 ff., 256 ff., 308 ff., 370 ff.

38a. ガイスラー (Werner Geisler)

3. Der Begriff Geld bei der Geldfälschung. GA 1981, S. 497 ff.

4. Stellung und Funktion der Staatsanwaltschaft im heutigen deutschen Strafverfahren. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 1109 ff.

39. ゲッペルト (Klaus B. Geppert)

論文 (Aufsätze)

9. Die Stellung des medizinischen Sachverständigen im Verkehrsprozeß. DAR 1980, S. 315 ff.

10. Examenklausur Strafrecht. Jura 1980, S. 204 ff.

11. Begünstigung (§ 257 StGB). Jura 1980, S. 269 ff., 327 ff.

12. Zur Stellung des ärztlichen Sachverständigen im Spannungsverhältnis zwischen Strafgericht und Proband. (Rollenproblem beim strafgerichtlichen Sachverständigenbeweis). De iustitia et iure, 1980, S. 773 ff.

13. Beschlagnahme von Schadenakten privater (Kraftzeug-)Haftpflichtversicherer im (Verkehrs-)Strafprozeß. DAR 1981, S. 301 ff.

14. Amtsdelikte (§ 331 ff StGB). Jura 1981, S. 42 ff., 78 ff.

15. Schwierigkeiten der Sperrfristbemessung bei vorläufiger Entziehung der Fahrerlaubnis. ZRP 1981, S. 85 ff.

40. ギーリング (Heinz Giehring)

論文 (Aufsätze)

5. Verkehrsblockierende Demonstration und Strafrecht. Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 513 ff.

6. Giehring et al., Sozialwissenschaften im Strafrecht. KrimJ 1981, S. 164 ff.

7. Gewährleistungspflicht der öffentlichen Träger der Jugendhilfe für geschlossene Einrichtung als „geeignetes Erziehungsheim“ i. S. der §§ 71 Abs. 2, 72 Abs. 3 JGG? ZBlfJRJW 1981, S. 461 ff.

41. ゲッピンガー (Hans Göppinger)

著書 (Buch)

4a. Kriminologie. 4. Aufl., 1980.

論文 (Aufsatz)

39. Der Mensch als Opfer im Tatgeschehen. Der Tatopfer als Subjekt, 1981, S. 3 ff.

42. ゲッセル (Karl Heinz Gössel)

論文 (Aufsätze)

15a. Crimes of recklessness. Prevention and treatment of offenders. *Revue intern. d. dr. pén.*, 1979, p. 11 ff.

19. Überlegungen zur Reform der Tötungsdelikte. *DRiZ* 1980, S. 281 ff.

20. Behörden und Behördenangehörige als Sachverständiger vor Gericht. *DRiZ* 1980, S. 363 ff.

21. Überlegungen über die Stellung der Staatsanwaltschaft im rechtsstaatlichen Strafverfahren und über ihr Verhältnis zur Polizei. *GA* 1980, S. 325 ff.

22. Wildes Plakatieren und Sachbeschädigung im Sinne des § 303 StGB. *JR* 1980, S. 184 ff.

23. Le contrôle des constatations de fait au degré d'instance de la cassation dans le procès pénal. *Journées de la société de législation comparée*. 1980, p. 211 ff.

24. Kritische Bemerkungen zum gegenwärtigen Stand der Lehre von den Beweisverboten im Strafverfahren. *NJW* 1981, S. 649 ff.

25. Überlegungen zu einer neuen Beweisverbotslehre. *NJW* 1981, S. 2217 ff.

43. グレーピング (Gerhardt Grebing)

1980冬学期に、ギーセン大学正教授になつたが、1982年6月3日に、急死した。

WS 1980 o. Professor in Gießen und gestorben am 3. Juni 1982.

論文 (Aufsätze)

24. Les expériences allemands du système des jours-amendes. *Rev. intern. d. dr. pén. et crim.* 1980, p. 303 ff.

25. Zur Problematik des Verschlechterungsverbots bei der Tagessatzgeldstrafe. *JR* 1981, S. 1 ff.

26. Geldstrafenverhängung nach dem Tagessatzsystem im deutschen Recht. SchwZStr 98. Bd., 1981, S. 45 ff.

45. グリュンワルト (Gerald Grünwald)

論文 (Aufsätze)

27. Die Verteidigung — Grundlagen und Ziele des Gesetzentwurfs des Arbeitskreises Strafprozeßreform. Anwaltsblatt, 1980, S. 5 ff.
28. Billigung von Straftaten (§ 140 StGB). Der Prozeß um das Buch „Wie alles anfang“ von Michael „Bommi“ Baumann. Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 489 ff.
29. Probleme der Gegenüberstellung zum Zweck der Wiedererkennung. JZ. 1981, S. 423 ff.

46. グシュウィント (Martin Gschwind)

論文 (Aufsätze)

23. Die kriminologischen Voraussetzungen zur Einweisung in eine sozialtherapeutische Anstalt. Neue Perspektiven in der Kriminologie, 1975, S. 187 ff.
24. Kriminalpsychologie und Kriminalpsychopathologie? Rechtswissenschaft und Rechtsentwicklung, 1980, S. 323 ff.

46a. ギュンター (Hans-Ludwig Günther)

1949年2月25日に、ポッフムに生まれた。1975年に、ポッフム大学のウルダ教授に提出した論文 Verurteilungen im Strafprozeß trotz subsumtionsrelevanter Tatsachenzweifel. Ein Beitrag zum Institut der sog. „ungleichartigen Wahlfeststellung“, 1976により学位を取得し、1976年に、トリエー大学のクライ教授の助手となり、1978年に Akademischer Rat, 81年に Akademischer Oberrat となつた。そして、1981年5月に、Strafrechtswidrigkeit und Strafrechtsausschluß (1982年刊行予定)により教授資格を取得し、1981年12月に、ボン大学から招聘された。

Geboren am 25. Februar 1949 in Bochum. Jura-Studium in Bochum und Berlin. Promotion bei Warda, Bochum, 1975. Wissenschaftlicher Assistent bei Krey, Trier 1976 — 78. 1978 Akademischer Rat, 1980 Akad. Oberrat. Habilitation bei Krey 1981, Ruf nach Bonn.

論文 (Aufsätze)

1. Wahlfeststellung zwischen Betrug und Unterschlagung? JZ 1976, S. 665 ff.
2. Zur Kombination von Täuschung und Drohung bei Betrug und Erpressung. ZStrW

Bd. 88, 1976, S. 960 ff.

3. Die Genese eines Straftatbestandes. Eine Einführung in Fragen der Gesetzgebungslehre. JuS 1978, S. 8 ff.
4. Strafrichterliche Beweiswürdigung und schweigender Angeklagter. JR 1978, S. 89 ff.
5. Die Schweigebefugnis des Tatverdächtigen im Straf- und Bußgeldverfahren aus verfassungsrechtlicher Sicht. GA 1978, S. 193 ff.
6. Zur strafprozessualen Problematik der sog. sukzessiven Verteidigung mehrerer Beschuldigter durch einen Verteidiger. JZ 1981, S. 816 ff.

47. ハフケ (Bernhard Haffke)

最近, 大学をやめて, 弁護士となったという。

論文 (Aufsätze)

17. Rückfall und Strafzumessung. KrimSozBibl. 1981, Jg. 8, Heft 31, S. 11 ff.
18. Zwangsverteidigung — notwendige Verteidigung — Pflichtverteidigung — Ersatzverteidigung. Strafverteidigung, 1981, S. 471 ff. (Auch in: 5. Strafverteidigertag Berlin 1981, S. 25 ff.)

48. ハフト (Fritjof Haft)

1982年夏学期に, エーザーの後任としてテュービンゲン大学教授に就任した。

SS 1982 o. Professor Tübingen als Nachfolger von Albin Eser.

著書 (Bücher)

3. Strafrecht. Allgemeiner Teil. 1980.
 4. Strafrecht. Besonderer Teil. 1982.
- 論文 (Aufsätze)
20. Praktische Erfahrungen mit juristischer Rhetorik. MDR 1980, S. 976 ff.
 21. Grenzfälle des Irrtums über normative Tatbestandsmerkmale im Strafrecht. JA 1981, S. 281 ff.
 22. Strafrecht und Rhetorik. JuS 1981, S. 718 ff.

50. ハナク (Ernst-Walter Hanack)

論文 (Aufsätze)

48. Empfiehlt es sich, neue Instrumente strafrechtlicher Art zur besseren Durchsetzung der Programmgrundsätze für Rundfunk- und Fernsehanstalten einzuführen („Verbraucherschutz“)? Rundfunkrecht 1981, S. 193 ff.
49. Arbeitskreis Strafprozeßreform: Die Verteidigung. Vorgelegt von Günter Bem-

mann, Gerald Grünwald, Winfried Hassemer, Detlef Krauß, Kraus Lüderssen, Wolfgang Naucke, Hans-Joachim Rudolphi, Jürgen Welp. C. F. Müller 1979. VIII, 149 S. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 559 ff.

52. ハッセマー (Winfried Hassemer)

著書・共編 (Bücher)

7. W. Hassemer — W. Hoffmann-Riem — M. Weiss (hrsg.), Generalklauseln als Gegenstand der Sozialwissenschaften, 1978.
8. W. Hassemer — W. Hoffmann-Riem — M. Weiss (hrsg.), Arbeitslosigkeit als Problem der Rechts- und Sozialwissenschaften, 1980.
9. Einführung in die Grundlagen des Strafrechts, 1981.
論文 (Aufsätze)
29. Reform der Strafverteidigung. ZRP 1980, S. 326 ff.
30. Die Freiwilligkeit beim Rücktritt vom Versuch. Zu Alltagstheorien und Dispositionsbegriffen in der Strafrechtsdogmatik. Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 229 ff.
31. Das „Absehen von Strafe“ als kriminalpolitisches Instrument. Festschr. f. Sarstedt, 1981, S. 65 ff.

53. ハイニッツ (Ernst Heinitz)

祝賀文 (Glückwünsche)

D. Oehler, Ernst Heinitz zum 80. Geburtstag. JZ 1982, S. 33.: H.-H. Jescheck, Ernst Heinitz zum 80. Geburtstag. ZStrW Bd. 94, 1982, S. 1 ff.

53. ハイニッツ (Wolfgang Heinz)

論文 (Aufsätze)

13. Straf(rest)aussetzung, Bewährungshilfe und Rückfall. Ergebnisse und Probleme kriminologischer Dokumentenanalyse. BewHi 1977, S. 296 ff.
14. Entwicklung, Stand und Struktur der Strafzumessungspraxis. Eine Übersicht über die nach allgemeinem Strafrecht verhängten Hauptstrafen von 1882 bis 1979. MSchrKrim 1981, S. 148 ff.
15. Probleme des Umweltstrafrechts im Spiegel der Literatur. NStZ 1981, S. 253 ff.
16. Die Todesstrafe unter juristischen und kriminologischen Aspekten. Weltweite Abschaffung der Todesstrafe, 1981, S. 26 ff.

55. ヘルマー (Joachim Hellmer)
著書 (Bücher)
11. Beiträge zur Kriminalgeographie, 1981.
12. Verdribt die Gesellschaft? Kriminalität als zwischenmenschliches Verhalten, 1981.
論文 (Aufsätze)
44. Prof. Dr. iur. et rer. pol. Hellmuth Mayer†. MSchrKrim 1980, S. 172.
45. Über die Glaubwürdigkeit des Strafrechts und die Bedeutung des zwischenmenschlichen Verhältnisses für die Kriminalitätsbekämpfung. JZ 1981, S. 153 ff.
46. Hilde Kaufmann†. JZ 1981, S. 243 f.
56. ヘンケル (Heinrich Henkel)
1981年2月28日に、ミュンヘン郊外のシュトックドルフで死去した。
Gestorben am 28. Februar 1981 in Stockdorf bei München.
57. v. ヘンティッヒ (Hans von Hentig)
追悼文 Nekrolog: Hans von Hentig, 1887—1974. Neue Perspektiven in der Kriminologie, 1975, S. 105 ff.
58. ヘレン (Rüdiger Herren)
著書 (Buch)
5. Lehrbuch der Kriminologie. Bd. 1, Die Verbrechenswirklichkeit, 1979.
59. ヘルマン (Joachim Herrmann)
論文 (Aufsätze)
- 14a. Sanctions: German Law and Theory. Am. J. Comp. L. vol. 24, 1976, p. 718 ff.
- 16a. Various Models of Criminal Proceedings. South African Journal of Criminal Law and Criminology 1978, p. 3 ff.
- 16b. Development and Reform of Criminal Procedure in the Federal Republic of Germany. The Comparative and International Law Journal of South Africa 1978, p. 183 ff.
19. Major Reforms in the Law of Sanctions: United States, Germany, Austria and France. UNAFEI Report 1978, 1979, p. 146 ff.
20. The Criminal Justice System of the Federal Republic of Germany. Nouvelles Etudes Pénal, vol. 2, 1980, p. 65 ff.
21. The German Criminal Justice System: The Trial Phase—Appellate and Review Proceedings: The Criminal Justice System of the Federal Republic of Germany. 1981,

p. 65 ff.

22. Die Notwehr im amerikanischen Strafrecht. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 615 ff.
23. The Anglo-American as Opposed to the Continental Approach to Criminal Law. De Jure, vol. 14, 1981, p. 39 ff.
24. Federal Republic of Germany. George F. Cole et al., Major Criminal Justice Systems, 1981, p. 86 ff.

60. ヘルツベルヒ (Rolf Dietrich Herzberg)

論文 (Aufsätze)

17. Tanken ohne zu zahlen. Zivil- und strafrechtliche Probleme beim Barkauf durch unredliche Käufer. JA 1980, S. 385 ff.
18. Das Wahndelikt in der Rechtsprechung des BGH. JuS 1980, S. 469 ff.
19. Aberratio ictus und error in objecto. JA 1981, S. 369 ff., 470 ff.

60a. ヒレンカンプ (Thomas Hillenkamp)

1943年に、ドレスデンに生まれた。グッチンゲン大学で法学を学び、1972年に学位を取得し (Die Bedeutung von Vorsatzkonkretisierungen bei abweichendem Tatverlauf, 1971), 後、助手を続け、1980年に教授資格を取得した (Vorsatztat und Opferverhalten, 1981)。同年、ボン大学教授となつたが、翌81年に、新設のオスナブリュック大学正教授となつた。

Geboren 1943 in Dresden. Nach seinem Jura-Studium in Göttingen, Promotion dort 1971 und im Jahre 1980 Habilitation. Im gleichen Jahre Professor Bonn, 1981 o. Professor in Osnabrück.

著書 (Bücher)

1. 24 Probleme aus dem Strafrecht — Allgemeiner Teil, 1978.
2. 36 Probleme aus dem Strafrecht — Besonderer Teil, 1978.

論文 (Aufsätze)

1. Zur materiellen Rückfallklausel des § 17 StGB. GA 1974, S. 208 ff.
2. Verwirkung des Strafanspruchs durch Verzögerung? JR 1975, S. 133 ff.
3. Verkehrsfährdung durch Gefährdung des Tatbeteiligten — OLG Stuttgart NJW 1976, 1904-. JuS 1977, S. 166 ff.
4. Risikogeschäft und Untreue. NSTZ 1981, S. 161 ff.

63. ヒルシュ (Hans Joachim Hirsch)

著書 (Buch)

3. Leipziger Kommentar zum StGB. 10. Aufl., 26. Lieferung (§ 223-233), 1981.

論文 (Aufsätze)

14. Zur Behandlung der Bagatellkriminalität in der Bundesrepublik Deutschland. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 218 ff.
15. Der Streit um Handlungs- und Unrechtslehre, insbesondere im Spiegel der Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 831 ff.

64. ホーニッヒ (Richard Honig)

1981年2月25日に、ゲッティンゲンにおいて91歳の生涯を終えた。

Gestorben am 25. Februar 1981 im Alter von 91 in Göttingen.

Nekrolog: H.-H. Jescheck, Richard Honig zum Gedächtnis. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 827 ff.

65. ホルン (Eckhard Horn)

1981年夏学期に、コンスタンツ大学教授になった。

SS 1981 o. Professor Konstanz.

著書 (Buch)

- 4a. Horn — Rudolphi — Samson, Systematischer Kommentar zum StGB. Bd. 1: Allgemeiner Teil., 3. Aufl, 1981.

論文 (Aufsätze)

17. Eine „Check-Liste“ für die wichtigsten Strafzumessungsentscheidungen. Jura 1980, S. 113 ff.
18. Kann die „mindestens erheblich verminderte Schuldfähigkeit“ den „Rausch“-Begriff i. S. des § 330a StGB definieren? JR 1980, S. 1 ff.
19. Ist die Verwarnung mit Strafvorbehalt noch zu retten? NJW 1980, S. 106 f.
20. Wie lange dauert der Strafreist beim Widerruf einer ausgesetzten Lebenszeit-Strafe? ZRP 1980, S. 62 ff.
21. Der Aussetzungswiderruf und das Absehen davon. Zum Verhältnis des § 56 f. Abs. 1 zu Abs. 2 StGB. JR 1981, S. 5 ff.
22. Der Beginn der Bewährungszeit bei der Aussetzung des Strafreists. JZ 1981, S. 14 ff.
23. Die nachträgliche Auflage nach § 56e StGB. MDR 1981, S. 13 ff.
24. Strafbares Fehlverhalten von Genehmigungs- und Aufsichtsbehörden? NJW 1981, S. 1 ff.

66. ルシュカ (Joachim Hruschka)

1981年冬学期に、アルツトの後任として、エアランゲン大学教授になった。

WS 1981 o. Professor Erlangen als Nachfolger von G. Arzt.

論文 (Aufsätze)

24. Zwei Axiome des Rechtsdenkens. Aus dem Hamburger Rechtsleben. Walter Reimers zum 65. Geburtstag, 1979, S. 459 ff.
25. Der Gegenstand des Rechtswidrigkeitsurteils nach heutigem Strafrecht. Zur Konsistenz möglicher Konzeptionen von der Bedeutung der Tatbestandsirrtümer. GA 1980, S. 1 ff.
26. Hehlerei und sachliche Begünstigung. Probleme zweier unfertiger Deliktskategorien. JR 1980, S. 221 ff.
27. Rechtfertigung oder Entschuldigung im Defensivnotstand? NJW 1980, S. 21 ff.

67. ヒューナーフェルト (Peter Hünerfeld)

著書 (Bücher)

1. Die Entwicklung der Kriminalpolitik in Portugal, 1971.
2. Strafrechtsdogmatik in Deutschland und Portugal. Ein rechtsvergleichender Beitrag zur Verbrechenslehre und ihrer Entwicklung in einem europäischen Zusammenhang, 1981.

論文 (Aufsatz)

3. Zum Stand der deutschen Verbrechenslehre aus der Sicht einer gemeinrechtlichen Tradition in Europa. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 979 ff.

69. イェーガー (Herbert Jäger)

共著 (Buch)

1. H. Jäger — G. Schmidchen — L. Stillword, Lebenslaufanalysen, 1981.

論文 (Aufsätze)

18. Zur Ambivalenz von Staatsforschung und staatlicher Auftragsforschung in der Kriminologie. KrimJ 1980, S. 228 ff.
19. Gedanken zur Kriminologie kollektiver Verbrechen. MSchrKrim 1980, S. 358 ff.
20. Veränderung des Strafrechts durch Kriminologie? Ansätze zur Konkretisierung interdisziplinärer Kooperation. Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten IV. Kriminalpolitik und Strafrecht, 1980, S. 9 ff.
21. Zur Gleichstellung von Homosexualität und Heterosexualität im Strafrecht. Vorgänge Nr. 52, 1981, S. 18 ff.

71. イェシェック (Hans-Heinrich Jescheck)

著書 (Buch)

19. Strafrecht im Dienste der Gemeinschaft. Ausgewählte Beiträge zur Strafrechtsreform, zur Strafrechtsvergleichung und zum Internationalen Strafrecht aus den Jahren 1953—1979, 1980.

論文 (Aufsätze)

- 114a. L'utilisation en pratique des sanctions nouvelles du droit pénal allemand. Rev. sc. crim. dr. pén. comp. 1979, p. 515 ff.
118. La crise de la politique criminelle. Arch. d. pol. crim. 1980, p. 15 ff.
119. Der Einfluß der IKV und der AIDP auf die internationale Entwicklung der modernen Kriminalpolitik. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 997 ff.
120. Entwicklung, gegenwärtiger Stand und Zukunftsaussichten des internationalen Strafrechts. GA 1981, S. 49 ff.
121. Development, present state and future prospects of international criminal law. Rev. intern. dr. pén. 1981, p. 337 ff.
122. Grundfragen der Dogmatik und Kriminalpolitik im Spiegel der Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 3 ff.
123. Richard Honig zum Gedächtnis. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 827 ff.

72. ユング (Heike Jung)

論文 (Aufsätze)

35. Kriminalpolitischer Stellenwert und Problematik der kurzen Freiheitsstrafe. Probleme der kurzen Freiheitsstrafe, 1979, S. 4 ff.
36. Die Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. Marketing, 1979, S. 46 ff.
37. Die Prognoseentscheidungen des Jugendrichters. Freie Mitarbeit und professionelle Sozialarbeit, 1980, S. 91 ff.
38. Die jugendrichterliche Entscheidung — Anspruch und Wirklichkeit. ZRP 1981, S. 36 ff.
39. Die Stellung des Verletzten im Strafprozeß. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 1147 ff.
40. Aktuelle Probleme des Strafvollzugs. Eine Bestandsaufnahme. Strafverfahren, Strafvollstreckung, Strafvollzug, 1981, S. 83 ff.
41. Die Rolle des Gesetzgebers auf dem Gebiet des Arztrechts. Arzt und Patient zwischen Therapie und Recht, 1981, S. 189 ff.

73. カイザー (Günther Kaiser)

著書 (Buch)

1a. Kriminologie. Lehrbuch. 4. Aufl., 1981.

論文 (Aufsätze)

70a. Developments in Criminal Law and Penal Systems, 1978: West Germany. The Criminal Law Review, 1979, p. 719 ff.

78. Zur Kriminologie der Gewaltdelikte. Schr. Polizei-FA, 1980, S. 129 ff.

79. Perspektiven vergleichender Pönologie. MSchrKrim 1980, S. 366 ff.

80. Möglichkeiten der Entkriminalisierung nach dem Jugendgerichtsgesetz im Vergleich zum Ausland. RdJ 1980, S. 266 ff.

81. Ursachen und Erscheinungsformen der Jugenddelinquenz. JWl 1981, S. 293 ff.

82. Neuere Entwicklungstendenzen in der Kriminologie. SchwZStr Bd. 98, 1981, S. 264 ff.

83. Rang, Recht und Wirklichkeit des Strafvollzuges in der hundertjährigen Entwicklung der Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 222 ff.

84. Verkehrsdelinquenz im kriminologischen Kontext. Schriftenreihe der Polizei-Führungsakademie, 1981, S. 174 ff.

85. Hilde Kaufmann zum Gedächtnis. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 1103 ff.

86. Gedenkrede zu Ehren von Frau Hilde Kaufmann am 25. Juni 1981 in Köln. Hilde Kaufmann (1920—1981) zum Gedächtnis, 1981, S. 8 ff.

87. Möglichkeiten der Entkriminalisierung nach dem Jugendgerichtsgesetz im Vergleich zum Ausland. Kury u. Lerchenmüller (hrsg.), Diversion. Alternativen zu klassischen Sanktionsformen, Bd. 1, 1981, S. 103 ff.

88. Kriminologische Forschung — ein Ausblick. H. Kury (hrsg.), Perspektiven und Probleme kriminologischer Forschung, 1981, S. 635 ff.

75. アルトゥール・カウフマン (Arthur Kaufmann)

論文 (Aufsätze)

34a. Probleme des Arztstrafrechts — unter besonderer Berücksichtigung der ärztlichen Aufklärungspflicht und der ärztlichen Schweigepflicht. Saarländisches Ärztblatt 1965, S. 550 ff.

38a. Probleme des ärztlichen Strafrechts. Forum des praktischen Arztes, 1968, Heft 5, S. 11 ff., Heft 6, S. 6 ff.

38b. Kaufmann — Hassemer, Enacted and Judicial Decision in German Jurisprudential

- Thought. University of Toronto Law Journal, 1969, p. 461 ff.
- 39a. Schuldstrafrecht und Resozialisierung. Radius Nr. 2, 1970, S. 37 ff.
- 39b. The right to resist. Blackacre — Journal of the Sydney University Law Society, 1970, p. 21 ff.
- 39c. Der Schutz von Ehe und Familie im kommenden Strafrecht. Tagung der Ersten Arbeitsgruppe der Rabanus-Maurus-Akademie, 1970, S. 2 ff.
- 49a. Ethische Normen im Wandel — aus der Sicht des Juristen. Forum Haus Ortlorn — Evangelische Akademie. Jg. 12, Nr. 68, 1972, S. 19 ff.
- 59a. Durch Naturrecht und Rechtspositivismus zur juristischen Hermeneutik. JZ 1975, S. 337 ff.
69. Kaufmann — Neumann, Der praktische Fall-Strafrecht : Der vorgetäuschte Selbstmord. JuS 1981, S. 670 ff.

76. ヒルデ・カウフマン (Hilde Kaufmann)

1981年1月10日に、ケルンで急死した。

Gestorben am 10. Januar 1981 in Köln.

Hilde Kaufmann (1920—1981) zum Gedächtnis. Reden anlässlich der Akademischen Trauerfeier für Frau Professor Dr. Hilde Kaufmann am 25. Juni 1981 von Peter Hanau — Günther Kaiser — Helmut Marquardt, 1981.

Nekrologe : J. Hellmer, Hilde Kaufmann †. JZ 1981, S. 243 f.; H. Marquardt, Nachruf für Hilde Kaufmann. MSchrKrim 1981, S. 185 ff.; NN., Prof. Dr. Hilde Kaufmann †. ZfStrVo 1981, S. 177; G. Kaiser, Hilde Kaufmann zum Gedächtnis, ZStrW Bd. 93, 1981, S. 1103 ff., 宮澤浩一・ヒルデ・カウフマン教授の急逝, 判例タイムズ 431号, 昭和56年, 38頁。

論文 (Aufsatz)

16. Die kriminologische Lehrveranstaltung als allgemeine Orientierungshilfe für Studierende? MSchrKrim 1980, S. 379 ff.
- ラテンアメリカで公刊された著作 (In Lateinamerika veröffentlichte Schriften von Hilde Kaufmann)
1. La criminología como crítica social. En Nuevo Pensamiento Penal. Buenos Aires, Año 2, No. 1, 1973.
 2. Principios para la reforma de la ejecución penal. Depalma, Buenos Aires, 1977.
 3. Represión o prevención de menores? En doctrina Penal. Buenos Aires, Año 1, 1978.
 4. Carta abierta al Consejo de redacción de Nuevo Foro Penal. Nuevo Foro Penal. Columbia 1979.

5. Ejecución Penal y terapia social (Band 1). Depalma, Buenos Aires 1979.

78. ケルナー (Hans-Jürgen Kerner)

著書 (Bücher)

- 2a. Kaiser — Kerner — Schöch, Strafvollzug. 3. Aufl., 1981.

3. J. A. Mack — H.-J. Kerner, The Crime Industry, 1975.

論文 (Aufsätze)

- 10a. Strukturen von „Erfolg“ und „Mißerfolg“ der Bewährungshilfe. Eine Analyse anhand offizieller Daten. BewHi 1977, S. 285 ff.
16. Soziale Dienste der Justiz im Konfliktfeld der Institutionen und Handlungserwartungen. BewHi 1980, S. 64 ff.
17. H.-J. Kerner — Thomas Feltes, Medien, Kriminalitätsbild und Öffentlichkeit. Ein-sichten und Probleme am Beispiel einer Analyse von Tageszeitungen. H. Kury (hrsg.), Strafvollzug und Öffentlichkeit, 1980, S. 73 ff.
18. Können und dürfen Therapeuten prognostizieren? Strafaussetzung zur Bewährung in der Praxis als Konfliktfeld für Vollzugsanstalten und Gerichte. Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 307 ff.
19. Präventionsmaßnahmen und Kriminalstatistik. Ein Beispiel für die Schwierigkeiten, komplexe Wirkungszusammenhänge in den Griff zu bekommen. Präventive Kriminalpolitik, 1980, S. 103 ff.
20. Ambulante Behandlungsprogramme im Inland und im Ausland — Ansätze, Erfahrungen. G. Pomper — M. Walter (Hrsg.), Ambulante Behandlung junger Straffälliger, 1980, S. 55 ff.
21. Diversion — eine wirkliche Alternative? H. Kury u. H. Lerchenmüller (hrsg.), Diversion. Alternativen zu klassischen Sanktionsformen, Bd. 2, 1981, S. 688 ff.

80. キーナッペル (Diethelm Kienapfel)

著書 (Buch)

10. Grundriß des österreichischen Strafrechts. Besonderer Teil. Bd. II. Delikte gegen Vermögenswerte, 1980.

論文 (Aufsätze)

- 28a. Die Schriftform der Urkunde. Rechtsgeschichte und Rechtsdogmatik. Festschr. f. Herrmann Eichler zum 70. Geburtstag am 10. Oktober 1977, S. 347 ff.
33. Der Einheitsgedanke — lebendiger denn je. StrProbGeg Heft 7, 1980, S. 53 ff.
34. Der strafrechtliche Urkundenbegriff im Spiegel der neuesten Judikatur. öJZ 1981,

S. 505 ff.

35. Vorschläge zur Abänderung des Besonderen Teils. Ein Diskussionsbeitrag. öRiZ 1981, S. 117 ff.

36. Grundprobleme des Urkundenstrafrechts. SchwZStr Bd. 98, 1981, S. 25 ff.

81. クラインクネヒト (Theodor Kleinknecht)

論文 (Aufsatz)

19. Öffentlichkeit der Hauptverhandlung und Schutz der Persönlichkeit. Festschr. f. den scheidenden Präsidenten des Oberlandesgerichts Nürnberg Dr. Maximilian Nüchterlein, 1978, S. 173 ff.

82. クルーク (Ulrich Klug)

論文 (Aufsatz)

35. Konfliktlösungsvorschläge bei heimlichen Tonbandaufnahmen zur Abwehr krimineller Telefonanrufe — Überlegungen zur Auslegung des § 201 StGB. Festschr. f. W. Sarstedt, 1981, S. 101 ff.

82a. ケーラー (Michael Köhler)

論文 (Aufsätze)

3. Zur Abgrenzung des Mordes. Erörtert am Mordmerkmal »Verdeckungsabsicht«. GA 1980, S. 121 ff.

4. Vorsatzbegriff und Bewußtseinsform des Vorsatzes. Zur Kritik der Lehre vom »sachgedanklichen Mitbewußtsein«. GA 1981, S. 285 ff.

83. コールマン (Günter Kohlmann)

編著 (Buch)

4. de Boor — Kohlmann, Obsessionsdelikte. Tiefenmotive für Eigentumsdelinquenz, 1980.

論文 (Aufsätze)

16. Wider die Furcht vor § 266 StGB. Hinweise zur Bearbeitung des Untreue-Tatbestandes. JA 1980, S. 228 ff.

17. Die öffentliche Hauptverhandlung — zweckmäßig, überflüssig oder geboten? JA 1981, S. 581 ff.

84a. クラツチュ (Dietrich Kratzsch)

1937年1月3日に、ベルリンで生まれた。ケルンとジュネーブで法律学を学び、1962年に国家試験に合格し、レフェンダールとなり、1967年に、ケルン大学で学位を取得した。Grenzen der Strafbarkeit im Notwehrrecht — Zugleich ein Beitrag zur Grundlagenforschung der Rechtswissenschaft unter besonderer Berücksichtigung der erkenntnistheoretischen Untersuchungen von Fr. Vinding Kruse, 1968. がその論文である。その後、裁判官となつたが、実務のかたわら研究を続け、1981年12月に、ケルン大学で教授資格を取得した。Organisation und Regelung im Strafrecht — Ansätze zu einer Methodenlehre der Strafrechtswissenschaft (未公刊)。

論文 (Aufsätze)

1. § 53 StGB und der Grundsatz nullum crimen sine lege. GA 1971, S. 65 ff.
2. Verstoß gegen Auflagen oder Weisungen — selbständiger Grund für den Widerruf einer Strafaussetzung? JR 1972, S. 369 ff.
3. Der strafrechtliche Aspekt der Selbstanzeige (§ 395 AO). Steuer und Wirtschaft 1974, S. 68 ff.
4. Strafflosigkeit einer mit einer Angehörigenbegünstigung konkurrierenden Fremdbegünstigung? JR 1974, S. 186 ff.
5. Verfassungsbeschwerde gegen fehlerhafte Anwendung des § 53 StGB? NJW 1974, S. 1546 ff.
6. Zur Neuregelung der Begünstigung im Steuerstrafrecht. NJW 1975, S. 199 ff.
7. Recht — mit zweierlei Maß? Zum Freispruch eines „Euthanasiearztes“. JR 1975, S. 102 ff.
8. Das (Rechts-)Gebot zu sozialer Rücksichtnahme als Grenze des strafrechtlichen Notwehrrechts. JuS 1975, S. 435 ff.
9. Nochmals: Aufweichung des § 395 AO durch Schrifttum und Finanzverwaltung? Die steuerliche Betriebsprüfung 1975, S. 260 ff.

85. クラウゼ (Friedrich Wilhelm Krause)

論文 (Aufsätze)

21. Probleme der actio libera in causa. Jura 1980, S. 169 ff.
22. Die objektiven Bedingungen der Strafbarkeit. Jura 1980, S. 449 ff.

86. クラウス (Detlev Krauß)

論文 (Aufsätze)

13. Der strafbefreiende Rücktritt vom Versuch. JuS 1981, S. 883 ff.

14. Subjekt im Strafverfahren? — Das Tatopfer als Subjekt, 1981, S. 44 ff.

87. クレブス (Albert Krebs)

論文 (Aufsätze)

92a. Es begann mit Religionsunterricht. Deimling — Lenzen (hrsg.), Straffälligenpädagogik und Delinquenzprophylaxe, S. 46 ff.

100a. John Howard's Influence on the Prison System of Europe with Special Reference to Germany. J. Freeman (ed.), Prisons Past and Future. In Commemoration of the bi-centenary of John Howard's The State of the Prisons, 1978, p. 35 ff.

88. クロイツァー (Arthur Kreuzer)

共著 (Buch)

2. A. Kreuzer — Ch. Gebhardt — M. Maassen — M. Stein-Hilbers, Drogenabhängigkeit und Kontrolle, 1981.

論文 (Aufsätze)

46. Anstieg der Jugendkriminalität — ein Mythos? Kritische Auseinandersetzung mit der Untersuchung „Jugendkriminalität im Zerrbild der Statistik“. Krim 1980, S. 67 ff.

47. Weitere Beiträge aus Gießener Delinquenzbefragungen. MSchrKrim 1980, S. 385 ff.

48. A. Kreuzer — Marcel Maassen, Polizeiliche Konzepte und Strategien — dargestellt am Beispiel der Drogendelinquenz. Kube — Aprill (hrsg.), Planung der Verbrechensbekämpfung, 1980, S. 43 ff.

49. Kriminalpolitik und Bekämpfung der Drogenkriminalität. Polizei und Kriminalpolitik, 1981, S. 65 ff.

89. クライ (Volker Krey)

論文 (Aufsatz)

12. Anwendung des „internationalen Strafrechts“ im Verhältnis der Bundesrepublik Deutschland zur DDR. JR 1980, S. 45 ff.

90a. キュール (Kristian Kühl)

1943年12月19日に、カールスルーエで生まれた。1972年11月に、ハイデルベルヒ大学のガラス教授の指導で学位を取得した。論文は、Die Beendigung des vorsätzlichen Begehungsdelikte, 1974 である。1975年から81年まで、ビーレフェルト大学のエーベルト教授の助手を勤め、1981年2月に、教授資格を取得した。Die Bedeutung der Unschuldvermutung für die Beendigung des Strafverfahrens durch Freispruch und Einstellung (未公開)

によつた。1981年5月に、エアランゲン大学教授となつた。

Geboren am 19. Dezember 1943 in Karlsruhe. Promotion bei W. Gallas, Heidelberg, 1972. Wissenschaftlicher Assistent bei U. Ebert, Bielefeld, 1975 — 1981. Habilitation 1981. Ernennung zum Professor für Strafrecht an der Universität Erlangen-Nürnberg, 1981.

論文 (Aufsätze)

1. Wertordnung oder Freiheitsordnung? Zur Bedeutung der Rechtsphilosophie für die Kriminalpolitik. GA 1977, S. 353 ff.
2. Einde van de rechtsstaat in die Bondsrepubliek? advocatenblad 1978, p. 56 ff.
3. Zur Beurteilung der Unschuldsvermutung bei Einstellung und Kostenentscheidungen. JR 1978, S. 94 ff.
4. Der Tod des Beschuldigten oder Angeklagten während des Strafverfahrens. NJW 1978, S. 977 ff.
5. Zum Verjährungsbeginn bei Anstellungs- und Rentenbetrug. (Anmerkung zu BGH JZ 1978, 283). JZ 1978, S. 549 ff.
6. Das leidige Thema der Konkurrenzen. JA 1978, S. 475 ff.
7. Ebert — Kühl, Kausalität und objektive Zurechnung. Jura 1979, S. 561 ff.
8. Grundfälle zu ‚Vorbereitung, Versuch, Vollendung und Beendigung‘. JuS 1979, S. 718 ff., 874 ff., 1980, S. 120 ff., 273 ff., 506 ff., 650 ff., 811 ff., 1981, S. 193 ff., 1982, S. 110 ff., 189 ff.
9. Haftentschädigung und Unschuldsvermutung. NJW 1980, S. 806 ff.
10. Die Auslagen des Nebenklägers bei Einstellung des Verfahrens. NJW 1980, S. 1834 ff.
11. Ebert — Kühl, Das Unrecht der vorsätzlichen Straftat. Jura 1981, S. 225 ff.

91. キューネ (Hans Heiner Kühne)

1981年夏学期に、トゥリエー大学正教授に就任した。

SS 1981 o. Professor Trier.

論文 (Aufsätze)

28. Criminalité et répression de criminalité au Japon : analyse socioculturelle et criminologique. criminologie vol. XIV, no. 1, 1981, p. 31 ff.
29. Die begrenzte Aussagepflicht des ärztlichen Sachverständigen vor Gericht nach §§ 53 I Nr. 3 StPO, 203 I Nr. 1 StGB. JZ 1981, S. 647 ff.
30. Die Kosten für den Dolmetscher im Strafverfahren. Kostenerstattung und Streitwert. Festschr. f. H. Schmidt, 1981, S. 33 ff.

92. キューパー (Wilfried Küper)

論文 (Aufsätze)

31. Entwicklungstendenzen der Strafrechtswissenschaft in der Gegenwart. Die Festschrift für Paul Bockelmann. GA 1980, S. 201 ff.
32. Die Bedeutung des § 105 Abs. 2 StPO für die Rechtmäßigkeit der Diensthandlung (§ 113 Abs. 3 StGB). Zugleich Anmerkung zu BayObLG JZ 1980, 109. JZ 1980, S. 633 ff.
33. Die sog. „Gefahrtragungspflichten“ im Gefüge des rechtfertigenden Notstandes. Ein Beitrag zum Verhältnis von Interessenabwägungs- und Angemessenheitsformel. JZ 1980, S. 755 ff.
34. Grenzfragen der Unfallflucht. — Zugleich ein Beitrag zur Deliktsbeendigung —. JZ 1981, S. 209 ff., 251 ff.
35. Tötungsverbot und Tötungsnotstand. Zur Problematik der Kollision „Leben gegen Leben“. JuS 1981, S. 785 ff.
36. Zur Problematik der sukzessiven Mittäterschaft. — Zugleich Anmerkung zum Urteil des BGH vom 16. 12. 1980, JZ 1981, 596. JZ 1981, S. 568 ff.
37. Zur Tatbestandsstruktur der Unfallflucht. NJW 1981, S. 853 ff.

93. キュルチンガー (Josef Kürzinger)

論文 (Aufsätze)

10. Kriminalpräventive Integration von Obdachlosen. Präventive Kriminalpolitik, 1980, S. 305 ff.
11. Die Körperverletzung — eine kriminologisch-kriminalistische Analyse. Schriftenreihe der Polizei-Führungsakademie 1981, S. 249 ff.

94. ラックナー (Karl Lackner)

著書 (Buch)

- 6a. StGB mit Erläuterungen. 13. Aufl., 1980, 14. Aufl., 1982.

論文 (Aufsatz)

42. Empfiehlt es sich, die Straftatbestände des Mordes, des Totschlages und der Kindstötung (§§ 211 bis 213, 217 StGB) neu abzugrenzen? Verh. d. 53. Deutschen Juristentages, Bd. 2, 1980, M. 25 ff.

95. ランベ (Ernst-Joachim Lampe)

著書 (Buch)

3. Der Kreditbetrug (§§ 263, 265b StGB), 1980.

論文 (Aufsatz)

28. Der strafrechtliche Schutz der Geisteswerke. UFITA Bd. 87, 1980, S. 107 ff.

97. ランゲ (Richard Lange)

論文 (Aufsätze)

116. Anthropologische Grenzbereiche zwischen Psychiatrie, Psychologie und Recht. NJW 1980, S. 2729 ff.

117. Die Entwicklung der Kriminologie im Spiegel der Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 151 ff.

99. レフェレンツ (Heinz Lefferenz)

論文 (Aufsatz)

42. Rückkehr zur gesamten Strafrechtswissenschaft?. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 199 ff.

101. レンクナー (Theodor Lenckner)

著書 (Buch)

2. Computerkriminalität und Vermögensdelikte, 1981.

論文 (Aufsätze)

29. Einwilligung in Schwangerschaftsabbruch und Sterilisation. Eser — Hirsch, Sterilisation und Schwangerschaftsabbruch, 1980, S. 173 ff.

30. Verschwiegenheitspflicht und Zeugnisverweigerungsrecht des Beraters. Eser — Hirsch, op. cit., S. 227 ff.

103. ロース (Fritz Loos)

論文 (Aufsatz)

6. Grenzen der Umsetzung der Strafrechtsdogmatik in der Praxis. Rechtswissenschaft und Rechtsentwicklung, 1980, S. 261 ff.

104. リューダーセン (Klaus Lüderssen)

著書・共編 (Bücher)

10. Kriminologie im Strafprozeß. Zur Bedeutung psychologischer, soziologischer und kriminologischer Erkenntnisse für die Strafrechtspraxis, 1980.

11. Lüderssen — Sack, Kriminalpolitik und Strafrecht, 1980.

12. Lüderssen — Sack, Vom Nutzen und Nachteil der Sozialwissenschaften für das

Strafrecht. 2 Bde 1980.

13. Kriminologie auf verschlungenen Wegen. Aufsätze zur Vermittlung von Theorie und Praxis, 1981.

論文 (Aufsätze)

- 9b. Petty Offences. Am. J. Comp. L. vol. 24, 1976, p. 754 ff.
17. Kriminalpolitik, Strafrecht und Wissenschaft. Frankfurter Heft 1980, S. 40 ff.
18. Erfolgzurechnung und »Kriminalisierung«. Die Jurisprudenz vor den Toren der Soziologie — Forschungsfragen an die Adresse der Kriminologen. Lüderssen — Sack, Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 13 ff.
19. „Zuschreibung“ kriminalpolitischer Positionen — ein neuer Zweig des Definitionsansatzes? „Ladendiebstahls-Soziologen“ formen Juristen nach ihrem Bild. Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 430 ff.
20. Kollektive Zurechnung — individualisierende Haftung. Ein „Grundwiderspruch“ der modernen Kriminalpolitik? Vom Nutzen und Nachteil usw., 1980, S. 737 ff.
21. Die Funktion der Strafverteidigung in einer freien Gesellschaft. Frankfurter Hefte 1981, S. 49 ff.
22. Aus der grauen Zone der staatlichen und individuellen Interessen. — Zur Funktion der Strafverteidigung in einer freien Gesellschaft. Festschr. f. W. Sarstedt, 1981, S. 145 ff.

105. リュットガー (Hans Lüttger)

論文 (Aufsätze)

23. Empfiehlt es sich, neue Instrumente strafrechtlicher Art zur besseren Durchsetzung der Programmgrundsätze für Rundfunk- und Fernsehanstalten einzuführen („Verbraucherschutz“)? Rundfunkrecht 1981, S. 123 ff.
24. Genese und Probleme einer Legaldefinition dargestellt am Beispiel des Schwangerschaftsabbruchs. Festschr. f. W. Sarstedt, 1981, S. 169 ff.

106. マイホーファー (Werner Maihofer)

論文 (Aufsatz)

49. Gesetzgebungswissenschaft. G. Winkler — B. Schilcher (hgg.), Gesetzgebung, 1981, S. 3 ff.

108. マイワルト (Manfred Maiwald)

著書 (Buch)

2. Kausalität und Strafrecht, 1980.

論文 (Aufsätze)

14. Nachträgliche Gesamtstrafenbildung und das Verbot der reformatio in peius. JR 1980, S. 353 ff.
15. Richard Honig 90 Jahre. JZ 1980, S. 71.
16. Unbefugtes Plakatieren ohne Substanzverletzung keine Sachbeschädigung? JZ 1980, S. 256 ff,
17. Moderne Entwicklung der Auffassung vom Zweck der Strafe. Rechtswissenschaft und Rechtsentwicklung, 1980, S. 291 ff.
18. Belohnung für eine vorgetäuschte pflichtwidrige Diensthandlung. NJW 1981, S. 2777 ff.

109. マルクヴァルト (Helmut Marquardt)

論文 (Aufsätze)

2. Nachruf für Hilde Kaufmann. MSchrKrim 1981, S. 185 ff.
3. Hilde Kaufmann zum Gedenken 25. Juni 1981. Hilde Kaufmann zum Gedächtnis, 1981, S. 37 ff.

110. マルクス (Michael Marx)

教授資格請求論文が否決され、学界を去つた。

論文 (Aufsätze)

14. Die Verwertung präsender Beweismittel nach neuem Recht. NJW 1981, S. 1415 ff.
15. Strafvollzugsrecht: Journalistenbesuch. JuS 1982, S. 121 ff.

113. メルゲン (Armand Mergen)

論文 (Aufsätze)

- 35a. Theorie und Realität des Strafvollzuges. Neue Perspektiven in der Kriminologie, 1975, S. 31 ff.
47. Spielsucht. Festschr. f. W. Sarstedt, 1981, S. 189 ff.

113a. モイラー (Dieter Meurer)

1943年8月11日に、ハイマースハイムで生まれた。ケルン大学で法学を学び、1968年からランゲ教授の副手をつとめ、1971年に学位を取得した。Fiktion und Strafurteil. Untersuchungen einer Denk- und Sprachform in der Rechtsanwendung, 1973 によつた。1973年から78年まで助手、1978年9月に講師となつた。Systematische Studien zum Prinzip

der freien Beweiswürdigung im Strafprozeß (未公刊) が教授資格論文であつた。そして、1979年2月に、マールブルク大学教授に招聘された。

Geboren am 11. August 1943 in Heimersheim. Nach seinem Jura-Studium in Köln, seit 1968 wissenschaftliche Hilfskraft. Promotion bei Richard Lange, 1971. 1973—1978 wissenschaftlicher Assistent am Kriminalwissenschaftlichen Institut der Universität zu Köln. Habilitation, 1979 und Dozent, dann Ernennung zum Professor in Marburg.

著書 (Bücher)

1. Die Bekämpfung des Ladendiebstahls. Wirtschaftlich-rechtliche Erwägungen und Daten zur kriminalpolitischen Situation, 1976.
2. Grundkurs Strafrecht II — Allgemeiner Teil. 1. Aufl., 1979; 2. Aufl., 1981.
3. Grundkurs Strafrecht III — Besonderer Teil. 1. Aufl., 1980.
4. Grundkurs Strafrecht IV — Strafprozeßrecht. 1981.
5. Zur Strafbarkeit der Anschaffung, Bereitstellung und Ausleihe von Schriften mit strafatbestandsmäßigem Inhalt insbesondere in Bibliotheken. Stellungnahme zur Diskussion über die sogenannten „Berufstypischen Strafbarkeitsrisiken“ eines Bibliothekers, 1981.

論文 (Aufsätze)

1. D. Meurer — H. H. Eul, Zur Verlängerung der Dreijahresfrist nach § 92 a Abs. 3 BSHG. Nachrichtendienst des Deutschen Vereins für öffentliche und private Fürsorge, 1970, S. 74.
2. Übungs- und Besprechungsstunden zu Strafrechtsvorlesungen — Ein Experiment zur Studienreform. Jb. der Universität zu Köln, 1970, S. 235 ff. (Auch in: Mitteilungen der Universität zu Köln, 1971, S. 11 f.)
3. D. Meurer — E. Teubner, Umfang und Auswirkungen einer rügelos gebliebenen Prozeßbehandlung. Zugleich Besprechung von OLG Saarbrücken NJW 1973, 854. NJW 1973, S. 1734 f.
4. Gehalt und Erklärungswert funktionaler Kriminalitätstheorien. Festschr. f. R. Lange, 1976, S. 555 ff.
5. Ärztliche Schweigepflicht und Verkehrssicherheit. 14. Deutscher Verkehrsgerichtstag 1976, S. 301 ff.
6. Betrug als Kehrseite des Ladendiebstahls? OLG Koblenz NJW 1976, 63. JuS 1976, S. 300 ff.
7. Die Fiktion als Gegenstand der Gesetzgebungslehre. Rüdiger (Hrsg.), Studien zu einer Theorie der Gesetzgebung, 1976, S. 281 ff.
8. Krankheit, ärztliche Schweigepflicht und Verkehrssicherheit — Grundlagenaspekte

eines Gesetzgebungsproblems. ZSchr. Verkehrssicherheit 1976, S. 77 ff.

9. Rundungsfehler, Rechenfehler, Rechtsfehler: Die „Aufrundung“ festgestellter Blutalkoholwerte. JR 1976, S. 554 f.

114. ユルゲン・マイヤー (Jürgen Meyer)

論文 (Aufsatz)

16. „Die Gerichtssprache ist deutsch“ — auch für Ausländer? ZStrW Bd. 93. 1981, S. 507 ff.

118. モース (Reinhard Moos)

論文 (Aufsätze)

- 3a. Die vorbeugenden Maßnahmen im neuen österreichischen Strafrecht. Zum neuen Strafrecht. Bd. 1: Allgemeiner Teil, 1973, S. 53 ff.
12. Die authentische Interpretation der Strafschärfung beim Rückfall nach § 39 StGB und der Schuld begriff. öJZ 1980, S. 113 ff., 143 ff., 169 ff.
13. Zum Stand der österreichischen Verbrechenslehre aus der Sicht einer gemeinrechtlichen Tradition — Ein Diskussionsbeitrag —. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 1023 ff.

120. ミュラー = ディーツ (Heinz Müller-Dietz)

著書 (Buch)

22. Rechtsberatung und Sozialarbeit, 1980.

論文 (Aufsätze)

- 71a. Sozialdienst in der Justiz. — Einige vorläufige Überlegungen —. BewHi 1977, S. 15 ff.
86. Unkosten. JZ 1980, S. 366.
87. Die Reihenfolge der Vollstreckung von Strafen und Maßregeln aus verschiedenen Urteilen. NJW 1980, S. 2789 ff.
88. Sexualität und Strafvollzug. Vorgänge Nr. 47/48, 1980, S. 141 ff.
89. Zur Diskussion über den Definitions- und Etikettierungsansatz (labeling approach). ZStrVo 1980, S. 105 ff.
90. Der Rechtsbrecher als Verletzer gesellschaftlicher Normen. H. Kury (hrsgg.), Strafvollzug und Öffentlichkeit, 1980, S. 17 ff.
91. Sozialer Dienst in der Strafrechtspflege — Grundlagen institutionalisierter Sozialarbeit. Freie Mitarbeit in der Straffälligenhilfe und professionelle Sozialarbeit, 1980, S. 127 ff.

92. Die Strafvollstreckungskammer. — Konzeption und Funktionen des vollzugsnahen Gerichts —. Jura 1981, S. 57 ff., 113 ff.
93. Die Rechtsprechung der Strafvollstreckungskammern zur Rechtsgültigkeit der VVStVollzG. NStZ 1981, S. 409 ff.
94. Die Stellung des Beschuldigten im Strafprozeß. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 1177 ff.
95. Jugendstrafrechtliche Sanktionen. Ihr Anteil und ihre Bedeutung für die Kriminalitätsprophylaxe. H. Kury — H. Lerchenmüller (hrsg.), Diversion. Alternativen zu klassischen Sanktionsformen. Bd. 1, 1981, S. 25 ff.
96. Alternativen zur Freiheitsstrafe — Aufwand und Ertrag? Sanktion und Hilfe — Alte Ziele — neue Wege in Strafjustiz und Straffälligenhilfe, 1981, S. 41 ff.

121. ナウケ (Wolfgang Naucke)

論文 (Aufsätze)

27. Die Dogmatisierung von Rechtsproblemen bei Kant. Zur Geschichte der Strafrechtsdogmatik im 19. Jahrhundert. ZSchr. f. Neuere Rechtsgeschichte, 1979, 1/4 S. 3 ff.
28. Hellmuth Mayer †. JZ 1980, S. 420 f.
29. Die Abhängigkeit zwischen Kriminologie und Kriminalpolitik, erörtert an neueren kriminologischen Schulrichtungen. Lüderssen — Sack, Seminar: Abweichendes Verhalten IV. Kriminalpolitik und Strafrecht, 1980, S. 68 ff.

123. ノル (Peter Noll)

著書 (Bücher)

- 5a. Strafprozessrecht, 1977.
8. Landesverräter. 17 Lebensläufe und Todesurteile 1942 — 1944, 1980.
論文 (Aufsätze)
48. Strafrechtswissenschaft und Strafgesetzgebung. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 73 ff.
49. Die Strafverteidigung und das Disziplinarrecht der Rechtsanwälte. SchwZStr Bd. 98, 1981, S. 179 ff.

124. エーラー (Dietrich Oehler)

論文 (Aufsätze)

- 42a. The Revision of the Penal Code. Am. J. Comp. L. vol. 24, 1976, p. 592 f.
- 42b. Attempted Crimes. Am. J. Comp. L., op. cit., p. 694 ff.
48. Die internationalstrafrechtlichen Bestimmungen des künftigen Umweltstrafrechts. GA 1980, S. 241 ff.

49. Strafrechtlicher Schutz ausländischer Rechtsgüter, insbesondere bei Urkunden, in der Bundesrepublik Deutschland. JR 1980, S. 485 ff.
50. La valutazione giuridica dei dati della personalità degli psicopatici delinquenti e reazione ad essi. Lo psicopatico delinquente, 1980, p. 365 ff.
51. Neuere Fragen zum Spezialitätsgrundsatz im Auslieferungsrecht. De iustitia et iure, 1980, S. 797 ff.
52. Perspectives on the contents of the special part of the Draft International Criminal Code. Rev. int. d. dr. pén. 1981, p. 407 ff.

125. オットー (Harro Otto)

論文 (Aufsätze)

20. Versuch und Rücktritt bei mehreren Tatbeteiligten. JA 1980, S. 641 ff., 707 ff.
21. Strafrecht als Instrument der Wirtschaftspolitik. MSchrKrim 1980, S. 397 ff.
22. Risikoerhöungsprinzip statt Kausalitätsgrundsatz als Zurechnungskriterium bei Erfolgsdelikten. NJW 1980, S. 417 ff.
23. Der Zusammenhang zwischen Krise, Bankrotthandlung und Bankrott im Konkursstrafrecht. Ged. Schr. f. R. Bruns, 1980, S. 265 ff.
24. Über den Zusammenhang von Schuld und menschlicher Würde. GA 1981, S. 481 ff.
25. Grundprobleme der Vollstreckungsgegenklage. JA 1981, S. 606 ff., 649 ff.

126. ペーターズ (Karl Peters)

著書 (Buch)

- 7a. Strafprozeß. 3. Aufl., 1981.

論文 (Aufsätze)

184. Änderungen des Rechts der Verfassungsbeschwerde? JR 1980, 265 ff.
185. Der Wandel im Revisionsrecht. Festschr. f. K. Schäfer, 1980, S. 137 ff.
186. Die Problematik der vorläufigen Einstellung nach § 154 Abs. 2 StPO. Strafverteidiger, 1981, S. 411 f.

127. フィリップス (Lothar Philipps)

論文 (Aufsätze)

- 9a. Kombinatorik strafrechtlicher Lehrmeinungen. Rechnen und Entscheiden. Mathematische Modelle juristischen Argumentationens, 1977, S. 221 ff.
- 9b. Aufgabenform und Auswertungsmodus bei multiple-choice-Aufgaben. Datenverarbeitung im Recht. Bd. 7, 1978, S. 341 ff.

10. Die Gerechtigkeit der Likedeeler. Rechtstheorie 11. Bd., 1980, S. 240 ff.
11. Über Relationen — im Rechtsleben und in der Normlogik. Rechtstheorie Beiheft 3: Zum Vorschritt von Theorie und Technik in Recht und Ethik, 1981, S. 123 ff.

128a. プッペ (Ingeborg Puppe)

論文 (Aufsätze)

8. Erscheinungsformen der Urkunde. Jura 1980, S. 18 ff.
9. Grundzüge der actio libera in causa. JuS 1980, S. 346 ff.
10. Der Erfolg und seine kausale Erklärung im Strafrecht. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 863 ff.
11. Zur Revision der Lehre vom „konkreten“ Vorsatz und der Beachtlichkeit der aberratio ictus. GA 1981, S. 1 ff.
12. Unzulässiges Handeln unter fremden Namen als Urkundenfälschung. JR 1981, S. 441 ff.

129. クヴェンゼル (Stephan Quensel)

論文 (Aufsätze)

- 38a. Bewährungshilfe und Strafvollzug. BewHi 1977, S. 89 ff.
44. Unsere Einstellung zur Droge. KrimJ 1980, S. 1 ff.
45. Anne-Eva Brauneck zum 70. Geburtstag. MSchrKrim 1980, S. 321.
46. Warum die Jugendkriminalität steigen muß. Anmerkungen zu einer DK Diskussion. MSchrKrim 1980, S. 413 ff.
47. Wie wird man kriminell? Unsere Jugend 1981, S. 347 ff.
48. Zum pädagogischen Ansatz im Justizvollzug. ZfStrVo 1981, S. 277 ff.

130a. ランフト (Otfried Ranft)

マールブルク大学のシュウィングのもとで、永い間、助手を勤め、その間、学位を取得した。(Der Individualschutz in den Strafrechtssystemen des neuzeitlichen Vernunftrechts bis zu P. J. A. v. Feuerbach. Ein Beitrag zur Dogmengeschichte des materiellen Strafrechts. Marburger Diss. 1969). 同大学の員外教授となり、学生の指導に当たっていたが、1980年頃に、新設のバイロイト大学教授となった。

Jura-Studium in Marburg, Assistent bei E. Schwinge, Promotion 1969 bei ihm. Dozent dort, 1980 o. Professor in Bayreuth.

論文 (Aufsätze)

1. Zur Unterscheidung von Tun und Unterlassen im Strafrecht. JuS 1963, S. 340 ff.

2. Keine üble Nachrede durch Strafanzeige? Das Verhältnis der §§ 164 und 186 StGB zueinander. MDR 1966, S. 107 ff.
3. Strafgrund der Berauschung und Rücktritt von der Rauschatat. MDR 1972, S. 737 ff.
4. Hilfepflicht und Glaubensfreiheit in strafrechtlicher Sicht. Eine Stellungnahme zum Beschluß des Bundesverfassungsgerichts v. 19. 10. 1971. Persönlichkeit in der Demokratie. Festschr. f. Erich Schwinge 1973, S. 111 ff.
5. Die Präklusion der Besetzungsrüge gemäß der Strafprozeßnovelle 1979 und das Recht auf den gesetzlichen Richter. NJW 1981, S. 1473 ff.
6. Staatsanwaltschaftliche Ermittlungstätigkeit und Immunität der parlamentarischen Abgeordneten. ZRP 1981, S. 271 ff.

131. ロリンスキー (Klaus Rolinski)

著書 (Bücher)

1. Städtebau und Kriminalität, 1979.
2. Wohnhausarchitektur und Kriminalität, 1981.

論文 (Aufsatz)

8. Ersatzfreiheitsstrafe oder gemeinnützige Arbeit? MSchrKrim 1981, S. 52 ff.

133. ロクシン (Claus Roxin)

著書 (Bücher)

- 1a. Strafprozeßrecht. PDW 8. Aufl., 1980.
11. Die Entwicklung des Abtreibungsrechts in der Bundesrepublik Deutschland, 1980.

論文 (Aufsätze)

61. Wandlungen der Strafrechtswissenschaft. JA 1980, S. 221 ff.
62. Zur Entwicklung der Kriminalpolitik seit den Alternativ-Entwürfen. JA 1980, S. 545 ff.
63. Die Wandlungen der Strafrechtswissenschaft und die gegenwärtige Situation der Kriminalpolitik. Univ. 1980, S. 23 ff.
64. Considerazioni di politica criminale sul principio di colpevolezza. Riv. it. d. dir. e proc. pen. 1980, p. 369 ff.
65. Schwangerschaft und Justiz. Zur Debatte. Themen der Katholischen Akademie in Bayern, 1980, S. 20 f.
66. Entwicklung und gesetzliche Regelung des Schwangerschaftsabbruchs. JA 1981, S. 226 ff.
67. Probleme beim strafrechtlichen Schutz des werdenden Lebens. JA 1981, S. 542 ff.

68. Der fehlgeschlagene Versuch. Zugleich ein Beitrag zum Problem der wiederholten Ausführungshandlung. JuS 1981, S. 1 ff.
69. Die „sozialethischen Einschätzungen“ des Notwehrrechts. — Versuch einer Bilanz —. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 68 ff.
70. Entwicklung und Stand der gesetzlichen Regelung des Schwangerschaftsabbruches. Franz Böckle (hrsg.), Schwangerschaftsabbruch als individuelles und gesellschaftliches Problem, 1981, S. 13 ff.

134. ルドルフィー (Hans-Joachim Rudolphi)

共著 (Buch)

- 2a. Horn — Rudolphi — Samson. Systematischer Kommentar zum Strafgesetzbuch. Bd. 1: Allgemeiner Teil. 3. Aufl., 1981.

論文 (Aufsätze)

28. Grundprobleme der Hehlerei. JA 1981, S. 1 ff., 90 ff.
29. Die Verbotsirrtumsregelung des § 9 StGB im Widerstreit von Schuld und Prävention. JBl. 1981, S. 289 ff.

135. リューピング (Hinrich Rüping)

著書 (Bücher)

2. Grundriß der Strafrechtsgeschichte, 1981.
3. Steuerfahndungsergebnisse und ihre Verwertbarkeit, 1981.

論文 (Aufsätze)

- 13a. Der Schutz der Menschenrechte im Strafverfahren. RIDP 1978, p. 323 ff.
18. Steuerfahndung im Rechtsstaat. Deutsche Steuer-Ztg 1980, S. 179 ff.

136. ザック (Fritz Sack)

共編 (Bücher)

8. Lüderssen — Sack, Vom Nutzen und Nachteil der Sozialwissenschaften für das Strafrecht. 2 Bde, 1980.
9. Lüderssen — Sack (Hrsg.), Kriminalpolitik und Strafrecht, 1980.

論文 (Aufsatz)

30. Die Kriminologie auf fremdem Boden. Lüderssen — Sack, op. cit. Bd. 1, S. 35 ff.

137. サムソン (Erich Samson)

共著 (Buch)

- 2a. Horn — Rudolphi — Samson, Systematischer Kommentar zum StGB. Bd. 1: Allgemeiner Teil. 3. Aufl., 1981.
論文 (Aufsatz)
13. Grundprobleme des Diebstahls (§ 242 StGB). JA 1980. S. 285 ff.
138. ザルシュテット (Werner Sarstedt)
Bibliographie: Rainer Hamm (hrsg.), Festschrift für Werner Sarstedt zum 70. Geburtstag, 1981, S. 393 ff.
論文 (Aufsatz)
26. Vom Richter zum Anwalt. Strafverteidiger 1981, S. 42 ff.
141. シュアフシュタイン (Friedrich Schaffstein)
著書 (Buch)
- 7a. Jugendstrafrecht. 7. Aufl., 1980.
論文 (Aufsätze)
- 70a. Das Delikt des Stellionatus in der gemeinrechtlichen Strafrechtsdoktrin. Eine Studie zur Entstehungsgeschichte des Betrugstatbestandes. Festschr. f. Franz Wieacker zum 70. Geburtstag, 1978, S. 89 ff.
73. Das Jugendstrafrecht als Pionier der allgemeinen Strafrechtsreform. Rechtswissenschaft und Rechtsentwicklung, 1980, S. 247 ff.
74. Zur Situation des Jugendrichters. NStZ 1981, S. 286 ff.
142. シルト (Wolfgang Schild)
著書 (Buch)
3. Alte Gerichtsbarkeit. Vom Gottesurteil bis zum Beginn der modernen Rechtsprechung, 1980.
論文 (Aufsätze)
30. Der Straftatbegriff als Argumentationsschema. ARSP Neue Folge Nr. 14, 1980, S. 213 ff.
31. Soziale und rechtliche Verantwortungen. JZ 1980, S. 597 ff.
32. Strafrecht als Phänomen der Geistesgeschichte. Strafjustiz in alter Zeit, 1980, S. 31 ff.
33. Geschichte des Strafrechts und Strafverfahrens. Strafjustiz in alter Zeit, op. cit., S. 49 ff.
34. Scharfrichter. Strafjustiz usw. op. cit., S. 217 ff.

35. „Objektiv“ und „Subjektiv“ in der Strafrechtswissenschaft. Jus humanitatis. Festschr. z. 90. Geburtstag von Alfred Verdross, 1980, S. 215 ff.
36. Der strafrechtsdogmatische Begriff der Zurechnung in der Rechtsphilosophie Hegels. ZSchr. f. Philosophische Forschung Bd. 35, Heft 3/4, 1981, S. 445 ff.
37. Die Menschenrechte als Sinnräume der Freiheit und ihre Sicherung im Recht. J. Schwartländer (hrsg.), Modernes Freiheitsethos und christlicher Glaube. Beiträge zur juristischen, philosophischen und theologischen Bestimmung der Menschenrechte, 1981, S. 246 ff.
38. Die Vielfalt der Handlungslehren und die Einheit des Handlungsbegriffs. Erfahrungsbezogene Ethik. Festschr. f. Johannes Messner zum 90. Geburtstag, 1981, S. 241 ff.
39. Ist die reine Rechtslehre Kelsens eine Theorie des Rechtspositivismus? Symposia I. Memoria del X Congreso mundial ordinario de filosofia del derecho y filosofia social, vol. V, 1981, S. 179 ff.

143. シリング (Georg Schilling)

論文 (Aufsatz)

4. Verschärfter Strafschutz gegen Abhör- und Aufnahmegeräte. JZ 1980, S. 7 ff.

144. ウェルナー・シュミット (Werner Schmid)

論文 (Aufsätze)

13. Richterausschluß (§ 22 Nr. 5 StPO) durch »dienstliche Äußerungen«. GA 1980, S. 285 ff.
14. Dienstliche Äußerungen als Mittel der Freibeweisführung im Strafprozeß. Schl.-Holst. Anz. 1981, S. 2 ff.
15. Über Eid und eidesstattliche Versicherung im strafprozessualen Freiheitsbeweisrecht. Schl.-Holst. Anz. 1981, S. 41 ff.

145. エーベルハルト・シュミットホイザー (Eberhard Schmidhäuser)

著書 (Buch)

6. Strafrecht. Besonderer Teil, 1980.

論文 (Aufsätze)

28. Zum Mordmerkmal der Habgier. Bemerkungen über ein Urteil des Hanseatischen Oberlandesgerichts Hamburg. Aus dem Hamburger Rechtsleben, 1979, S. 445 ff.
29. Die Grenze zwischen vorsätzlicher und fahrlässiger Straftat („dolus eventualis“ und „bewußte Fahrlässigkeit“). JuS 1980, S. 241 ff.

30. Schlußwort (zu Kramer — Trittel, Verfassungsmäßigkeit des §17 StGB). JZ 1980, S. 396.
31. Versendung von Sonderdrucken als gemeindienstliche Agententätigkeit? Mitteilungen des Hochschulverbandes 1980, S. 46 f.
32. Bedeutung und Praktikabilität des Gesinnungsbegriffs bei den Tötungsdelikten. KrimGegFr. Heft 14, Tötungsdelikte, 1980, S. 103 ff.

146. エーベルハルト・シュミット (Eberhard Schmidt)

遺稿集が公刊された。その永年の刑法史に関する論文がまとめられた。

著書 (Buch)

35. Beiträge zur Geschichte des preußischen Rechtsstaates, 1980.

147. ゲルハルト・シュミット (Gerhard Schmidt)

論文 (Aufsätze)

- 19a. Die mittelalterlichen Richterregeln in Schweden. Eine Skizze. Rechtshistorische Studien. Hans Thieme zum 70. Geburtstag, 1977, S. 119 ff.
20. Friedrich von Spee in memoriam. DRiZ 1981, S. 226 ff.
21. Ankläger und Verteidiger im schwedischen Strafprozeß. Festschr. f. W. Sarstedt, 1981 S. 329 ff.

148. ルドルフ・シュミット (Rudolf Schmitt)

論文 (Aufsätze)

27. Zwei Strafrechtsklausuren für Anfänger. Jura 1980, S. 547 ff.
28. Die „schwere andere seelische Abartigkeit“ in §§ 20 und 21 StGB. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 346 ff.

149. シュナイダー (Hans Joachim Schneider)

著書・編著 (Bücher)

7. Das Geschäft mit dem Verbrechen. Massenmedien und Kriminalität. 1980.
8. Die Psychologie des 20. Jahrhunderts. Bd. XIV: Auswirkungen auf die Kriminologie. Delinquenz und Gesellschaft, 1981.

論文 (Aufsätze)

- 81a. Vergleichende Kriminologie. — Zugleich ein Überblick über Leben und Werk von Hermann Mannheim —. BewHi 1975, S. 180 ff.
- 91a. Crime and Criminal Policy in some Western European and North American Countries. Intern. Review of Crim. Policy 1979, p. 55 ff.

- 92a. Viktimologie — Die Wissenschaft vom Verbrechensopfer. öRiZ 1979, S. 29 ff.
 100. The influence of mass communication media on public opinion on crime and criminal justice. Collected Studies in Criminological Research. vol. 17, 1979, p. 119 ff.
 101. Opfer des Terrorismus. MSchrKrim 1980, S. 407 ff.

150. シェッヒ (Heinz Schöch)

共著 (Buch)

3. Schreiber — Schöch — Bönitz, Die Jugendgerichtsverhandlung am „Runden Tisch“, 1981.

論文 (Aufsätze)

15. Recherches récentes sur le fonctionnement des tribunaux. Krim Bull 1980, S. 83 ff.
 16. Kriminologie und Sanktionsgesetzgebung. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 143 ff.
 17. Verstehen, Erklären, Bestrafen? — Vergangenes und Aktuelles zur „gesamten Strafrechtswissenschaft“. Rechtswissenschaft und Rechtsentwicklung, 1980, S. 305 ff.
 18. Neuere Entwicklungen in der Strafverfahrensforschung. SchwZStrW Bd. 98, 1981, S. 293 ff.

151. シェーネボルン (Christian Schöneborn)

著書 (Buch)

1. Strafprozessuale Wiederaufnahmeproblematik. Eine funktionalistisch angelegte Aktenanalyse gescheiterter Wiederaufnahmeverfahren, 1980. (Habilitation)

論文 (Aufsätze)

- 1a. Die Beweisverbotsproblematik der § 52 Abs. 2, 55 Abs. 2 StPO im Licht des § 68 Satz 2 StPO. MDR 1974, S. 457 f.
 9a. H. O. Sieg — Schöneborn, Zur Berücksichtigung von Verfahrenshindernisse bei nicht ordnungsgemäß begründeter Revision. MDR 1975, S. 811 ff.
 13. Grenzen einer generalpräventiven Rekonstruktion des strafrechtlichen Schuldprinzips. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 682 ff.
 14. Zum „Erfolgsunwert“ im Lichte der sozialpsychologischen Attributionstheorie. GA 1981, S. 70 ff.
 15. Zum Leitgedanken der Rechtfertigungseinschränkung bei Notwehrprovokation. NStZ 1981, S. 201 ff.

154. シュライバー (Hans-Ludwig Schreiber)

共著 (Buch)

4. Schreiber — Schöch — Bönitz, Die Jugendgerichtsverhandlung am „Runden Tisch“, 1981.

論文 (Aufsätze)

- 17a. Wachsmuth — Schreiber, Resolution zur Behandlung Todkranker und Sterbender. Mediz. Welt. 1979, S. 1379 ff.
20. Die Stellung des Sachverständigen im Strafprozeß. Anstöße 1980, S. 125 ff.
21. Die Zweiteilung der Hauptverhandlung. BewHi 1980, S. 132 ff.
22. Notwendigkeit und Grenzen einer rechtlichen Regelung ärztlicher Tätigkeit. Der Chirurg Bd. 51, 1980, S. 411 ff.
23. Behandlungsrisiko und Arzthaftung. Langenbecks Arch. Chir. vol. 352, 1980, S. 43 ff.
24. Vor dem Ende des Schuldstrafrechts? Rechtswissenschaft und Rechtsentwicklung, 1980, S. 281 ff.
25. Widersprüche und Brüche in heutigen Strafrechtskonzeptionen. Gibt es ein Recht auf Strafe? 1980, S. 35 ff.
26. W. Wachsmuth — H.-L. Schreiber, Das Dilemma der ärztlichen Aufklärung. Neue Probleme für die Rechtsprechung. NJW 1981, S. 1985 ff.
27. Bedeutung und Auswirkung der neugefaßten Bestimmungen über die Schuldfähigkeit. NSTZ 1981, S. 46 ff.
28. Strafzumessungsrecht. NSTZ 1981, S. 338 ff.
29. Der Studiengang Rechtswissenschaften in Osnabrück. Recht u. Politik 1981, S. 14 ff.
30. U. Venzlaff — H.-L. Schreiber, Der Maßregelvollzug. — Stiefkind der Strafrechtsreform? Manfred Bergener (Hrsg.), Psychiatrie und Rechtsstaat, 1981, S. 189 ff.

155. フリードリッヒ・クリスチアン・シュレーダー (Friedrich-Christian Schroeder) 著書 (Bücher)

- 15a. Maurach — Schroeder, Strafrecht. Besonderer Teil. Teilband 2, 6. Aufl., 1981.
16. §§ 15—18. Leipziger Kommentar zum StGB. 10. Aufl., 1980.

論文 (Aufsätze)

- 82a. Die neue Strafrechtsreform der DDR. Deutschlands Archiv 1979, S. 1064 ff., 1072 ff.
84. Systemtheoretische Ansätze in der sowjetischen Staats- und Rechtstheorie. Jb. f. OR. Bd. 20, 1979, S. 7 ff.
85. Das albanische Strafgesetzbuch von 1977. Einführung. Jb. f. OR. Bd. 20, 1979, S. 223 ff.

86. Negligence delicts, prevention and treatment of offenders. *Revue intern. d. dr. pén.* 1979, p. 20 ff.
87. Das Strafrecht der DDR und der Sowjetunion. Ein Beitrag zur Meso-Rechtsvergleichung. *ZStrW* Bd. 91, 1979, S. 1065 ff.
88. Aufwertung des Strafverteidigers in der DDR. *Deutschlands Archiv* 1980, S. 130 ff.
89. Zunahme der Gewaltkriminalität in der DDR. *Deutschlands Archiv* 1980, S. 282 ff.
90. Die Behandlung der natürlichen Handlungseinheit in strafrechtlichen Übungen. *Jura* 1980, S. 240 ff.
91. Notstandsfrage bei Dauergefahr — BGH, NJW 1979, 2053. *JuS* 1980, S. 336 ff.
92. Moabiters Landrecht oder Hamburger juristische Spökenkikerei? NJW 1980, S. 920 ff.
93. Die Entwicklung der Kriminalität in der DDR 1979. *Deutschlands Archiv* 1981, S. 845 ff.
94. Die Typen der juristischen Hilfsmittel. *JA* 1981, S. 397 ff.
95. Die Beurteilung und Auswahl juristischer Studienliteratur. *JuS* 1981, S. 700 ff.
96. Rückwirkungsprobleme im sowjetischen Strafrecht. *JZ* 1981, S. 336 f.
97. Der Schutz staatsbezogener Daten im Strafrecht. NJW 1981, S. 2278 ff.
98. Das Strafrecht zum Schutz von Verfassung und Staat. *Verfassungsschutz und Staat*, 1981, S. 219 ff.

156a. シューバルト (Martin Schubarth)

1980年の夏学期に、ハノーバー大学教授となつた。

SS 1980 o. Professor Hannover.

著書 (Buch)

1. Zur Tragweite des Grundsatzes der Unschuldsvermutung, 1978.
論文 (Aufsätze)
12. Reform des Schweizerischen Strafgesetzbuches — Gewaltverbrechen. *ZRP* 1980, S. 310 f.
13. Das Verhältnis von Strafrechtswissenschaft und Gesetzgebung im Wirtschaftsstrafrecht. *ZStrW* Bd. 92, 1980, S. 80 ff.
14. Grenzen der Strafbarkeit sexueller Zumutungen — OLG Hamburg, NJW 1980, 2592. *JuS* 1981, S. 726 ff.
15. Zur Problematik des Verbots der Mehrfachverteidigung. *Festschr. z. 150. Jahrfest des Rechtsanwaltsvereins Hannover*, 1981, S. 241 ff.

157. シューラー = シュプリングホルム (Horst Schüler-Springorum)

論文 (Aufsätze)

26. Les problèmes des établissements socio-therapeutiques. Rev. Sc. Crim. dr. pén. comp. 1980, p. 401 ff.
27. Rudolf Sieverts†. ZBlJRJW 1980, S. 361 f.
28. Jugendrichter '80. ZBlJRJW 1980, S. 363 ff.
29. Alternativen zum Gefängnis. Forum Europarat 1981, S. XVII ff.

158. シューネマン (Bernd Schünemann)

論文 (Aufsätze)

23. Raub und Erpressung. JA 1980, S. 349 ff., 393 ff., 486 ff.
24. Die Bedeutung der „Besonderen persönlichen Merkmale“ für die strafrechtliche Teilnehmer- und Vertreterhaftung. Jura 1980, S. 354 ff., 568 ff.
25. Grundfragen der strafrechtlichen Zurechnung im Tatbestand der Baugefährdung (§ 323 StGB). ZfBR 1980, S. 4 ff., 113 ff., 159 ff.

160. シュウイント (Hans-Dieter Schwind)

1982年に、ニーダーザクセン州の司法大臣を辞任した。

論文 (Aufsätze)

26. Kriminologische Forschung und Kriminalpolitik. H. Kury (hrsg.) Perspektiven und Probleme kriminologischer Forschung, 1981, S. 80 ff.
27. Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität erläutert am Beispiel von Niedersachsen. JR 1980, S. 228 ff.
28. Präventionsprogramm Polizei/Sozialarbeiter. Ein Modellversuch des Niedersächsischen Justizministeriums. Krim 1980, S. 58 ff.
29. Zur kriminalpolitischen Lage in der Bundesrepublik Deutschland. Präventive Kriminalpolitik, 1980, S. 3 ff.
30. Kriminalprävention in Niedersachsen. Präventive Kriminalpolitik, op. cit., S. 531 ff.
31. Zum Sinn der Strafe und zum Ziel (Zweck) des (Straf-)vollzugs. BewHi 1981, S. 351 ff.
32. Zur Zukunft der Sozialtherapeutischen Anstalt. Was soll (kann) aus der Sozialtherapeutischen Anstalt werden? NStZ 1981, S. 121 ff.
33. Alte und neue Wege in der Entlassenenhilfe, erläutert am Beispiel von Niedersachsen. ZfStrVo 1981, S. 4 ff.
34. Zur Jugendrevolte aus kriminologischer und politischer Sicht. ZRP 1981, S. 294 ff.

161. シュウィング (Erich Schwinge)

論文 (Aufsätze)

- 38a. Prosper Mérimée und die französische Strafjustiz. Lieber Amicorum Ernst J. Cohn. Festschr. f. Ernst J. Cohn zum 70. Geburtstag, 1975, S. 179 ff.

161-1. ゼーボデー (Manfred Seebode)

1938年9月15日に、ベルリンで生まれた。ヴュルツブルクとベルリンで法学を学び、1964年から69年まで、ヴュルツブルク大学の刑事法ゼミナールの副手をつとめ、その間、1968年に学位を取得した。Das Verbrechen der Rechtsbeugung, 1969 がその論文である。1969年から76年まで、ヴュルツブルク大学助手を勤めた。1976年に、ミュンスター単科大学教授になった。

Geboren am 15. September 1938 in Berlin. Jura-Studium in Würzburg und Berlin, 1964—1969 wissenschaftliche Hilfskraft am Seminar für Strafrecht und strafrechtliche Hilfswissenschaften der Universität Würzburg, Promotion bei G. Spengel, 1968. 1969—1976 wissenschaftlicher Assistent bei Spengel. 1976 Professor für Strafrecht, Strafprozeßrecht, Strafvollzugsrecht und Kriminologie am Fachbereich Sozialwesen der Fachhochschule Münster.

共編 (Buch)

1. Alternativentwurf einheitlicher Polizeigesetze des Bundes und der Länder, 1979.

論文 (Aufsätze)

1. Keine Gesetzgebungskompetenz des Bundes für Vorbeughaft. ZRP 1969, S. 25 ff.
2. Rechtsblindheit und bedingter Vorsatz bei der Rechtsbeugung. JuS 1969, S. 204 ff.
3. Schweigen des Beschuldigten zur Person. MDR 1970, S. 185 ff.
4. Schriftverkehr zwischen Strafgefangenem und Anwalt. Ein Beitrag zu Grundfragen des Strafvollzugsrechts. MDR 1971, S. 98 ff.
5. Unterhaltspflichtverletzung als Straftat. JZ 1972, S. 389 ff.
6. Die gerichtliche Zurückweisung eines Strafverteidigers. NJW 1972, S. 2257 ff.
7. Versteckte Strafrechtsreform: Geringere Richterverantwortlichkeit? ZRP 1973, S. 239 f.
8. Strafverfolgung nach Polizeirecht? Kritische Bemerkungen zum Musterentwurf einheitlicher Polizeigesetze. MDR 1976, S. 537 ff.
9. Das Recht zur Festnahme entwichener Strafgefangener. Bemerkungen zu § 87 StVollzG, § 457 StPO und § 13 Abs. 3 MEPolG. Festschr. f. H.-J. Bruns, 1978, S. 487 ff.
10. Über die Freiheit, die eigene Strafverfolgung zu unterstützen. JA 1980, S. 493 ff.

11. M. Seebode—F. Sydow, „Hörensagen ist halb gelogen“. Das Zeugnis vom Hörensagen im Strafprozeß. JZ 1980, S. 506 ff.
12. Neue Entwicklung im Strafprozeß- und Polizeirecht aus der Sicht der Wissenschaft. Polizei und Kriminalpolitik 1981, S. 101 ff.

161a. ゼールマン (Kurt Seelmann)

論文 (Aufsätze)

6. Neue Entwicklung beim strafrechtsdogmatischen Schuldbegriff. Jura 1980, S. 505 ff.
7. Betrug beim Handel mit Rohstoffoptionen. NJW 1980, S. 2545 ff.
8. Strafzwecke und Wiedergutmachung. ZSchr. f. evang. Ethik 1981, S. 44 ff.

161b. ゼッサー (Klaus Sessar)

1982年夏学期に、ハンブルク第一法学部教授となつた。

SS 1982 Ernennung zum Professor, Rechtswissenschaft I der Univ. Hamburg.

著書 (Buch)

4. Rechtliche und soziale Prozesse einer Definition der Tötungskriminalität, 1981.
論文 (Aufsätze)
17. Rolle und Bedeutung des Opfers im Strafverfahren—Gegenwärtiger Stand und Überlegungen zur Reform. BewHi 1980, S. 328 ff.
18. Criminalité et Ministère public. Die Bewältigung der Kriminalität durch die Staatsanwaltschaft. Krim Bul 1980, S. 65 ff.
19. Die Umgehung der lebenslangen Freiheitsstrafe. MSchrKrim 1980, S. 193 ff.
20. Wege zu einer Neugestaltung der Hauptverhandlung. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 698 ff.

163. ジーバーツ (Rudolf Sieverts)

1980年4月28日に、ハイデルベルヒで死去した。77歳であつた。

Gestorben am 28. April 1980 in Heidelberg.

Nekrologe: NN., Nachruf Prof. Dr. jur. Rudolf Sieverts. MSchrKrim 1980, S. 246 f., Horst Schüler-Springorum, Rudolf Sieverts zum Gedächtnis. ZBJR/JW1 1980, S. 361 f.; 宮澤浩一・ルドルフ・ジーヴァーツ教授の訃, 判例タイムズ426号, 昭和56年, 41頁。

163a. ソンネン (Bernd-Rüdigger Sonnen)

論文 (Aufsätze)

8. Zur Problematik des § 211 StGB. Konsequenzen aus dem Urteil des BVG zur lebenslangen Freiheitsstrafe für Rechtsprechung, Gesetzgebung und kriminologische For-

schung. JA 1980, S. 35 ff.

9. Fehlgeschlagener Versuch und Rücktrittsvoraussetzungen. JA 1980, S. 158 ff.
10. Erfolgsdefinition und Erfolgsmessung behandlungsintensiver ambulanter Maßnahmen. G. Pomper — M. Walter (hrsg.), Ambulante Behandlung junger Straffälliger, 1981, S. 91 ff.

164b. シュテファン (Egon Stephan)

1943年11月26日に、ワルツフートで生まれた。1971年に学位を取得した。Beziehungen zwischen Variablen des Unterrichtsverhaltens und persönlichen Einstellungen bei Lehrern der Grund- und Hauptschule, 1971. 1971年から76年まで、フライブルクにあるマックス・プランク・外国・国際刑法研究所の研究員をつとめた。1976年に、トリエー大学の心理学群の教授に招聘された。

Geboren am 26. November 1943 in Waldshut. Promotion 1971, Philosophische Fakultät der Universität Freiburg. 1971—1976 wissenschaftlicher Referent bei G. Kaiser am MPI f. ausländisches und internationales Strafrecht in Freiburg. 1976 Ernennung zum Professor am Fachbereich I—Psychologie an der Universität Trier.

著書 (Buch)

1. Die Stuttgarter Opferbefragung. Eine kriminologisch-viktimologische Analyse zur Erforschung des Deliktsfeldes unter besonderer Berücksichtigung der Einstellung der Bevölkerung zur Kriminalität, 1976.

論文 (Aufsätze)

1. Datenverarbeitung und kriminologische Forschung unter Berücksichtigung kriminalpolitischer Aspekte. Datenverarbeitung. Arbeitstagung des BKA Wiesbaden 1972, S. 251 ff.
2. Dunkelfeld und registrierte Kriminalität. KrimJ 1972, S. 115 ff.
3. Schulbildung, Lebensalter und das Verständnis von Deliktsdefinitionen. KrimJ 1972, S. 272 ff.
4. Zum Freiburger Dunkelfeldprojekt. Erwiderung auf die Anmerkung von Jörg Wolff. KrimJ 1972, S. 304 ff.
5. Forensische Psychologie. Kaiser et al. (hrsg.), Kleines kriminologisches Wörterbuch 1974, S. 93 ff.
6. Ausmaß und Einschätzung von Kriminalität. Mitteilungen aus der MPI Heft 2, 1974, S. 97 ff.
7. Die Ergebnisse der Stuttgarter Opferbefragung unter Berücksichtigung vergleichbarer amerikanischer Daten. Krim 1975, S. 201 ff.

8. E. Stephan — H. Kury, Testtheoretische Analyse und Normierung des EPI-k bei 14- bis 25-jährigen Pbn. Psychologie und Praxis, Heft 2, 1976, S. 82 ff.
 9. Ergebnisse von Persönlichkeits- und Einstellungsmessung in der Dunkelfeldforschung. Göppinger — Kaiser (hrsg.), Kriminologie und Strafverfahren. KrimGegFr. Heft 12, 1976, S. 240 ff.
 10. Die Einstellung zur Todesstrafe in ihrer Anhängigkeit von sozialer Schicht, Geschlecht, Alter und Persönlichkeitsmerkmalen. ZStrW Bd. 89, 1977, S. 1046 ff.
 11. Personality and Attitude Measurement in Two Studies of Self-Reported Delinquency and Victimization. Intern. Journ. Criminology and Penology 1977, p. 275 ff.
 12. Leistungsmessung und Leistungsbeurteilung im Überblick. E. Stephan — W. Schmidt (hrsg.), Messen und Beurteilen von Schülerleistungen, 1978, S. 13 ff.
 13. Sozialbedingte negative Veränderungen des Selbstbildes (Stigmatisierung) als Bedingungsvariable abweichenden Verhaltens. L. H. Eckensberger, Bericht über den 31. Kongreß der Deutschen Gesellschaft für Psychologie in Mannheim 1978, 1979, S. 395 ff.
 14. Opfertypologien und der Vorschlag einer sozial-psychologisch fundierten Alternativen: Zu einer Taxonomie viktimogener Situationen. K. Sessar — F. G. Kirchoff (Hrsg.), Viktimologie, 1979, S. 219 ff.
 15. Die Motivation zur Psychotherapie bei jugendlichen Untersuchungshäftlingen und Strafgefangenen. ZStrVo 1979, S. 138 ff.
 16. Die Bedeutung von Vorurteilen für den einzelnen und für Gruppen. P. v. Polenz (Hrsg.), Was sind Vorurteile. Trierer Beiträge, 1979, S. 25 ff.
 17. Beeinflussung der Verkehrstüchtigkeit durch die Einnahme eines pflanzlichen Sedativums. ZSchr. f. Therapiewoche Bd. 30, 1980, S. 3662 ff.
166. シュトラーターテンウェルト (Günter Stratenwerth)
著書 (Buch)
- 5a. Strafrecht. Allgemeiner Teil. 1. Straftat. 3. Aufl., 1981.
論文 (Aufsätze)
 - 32a. Inzest und Strafgesetz. Familienrecht im Wandel. Festschr. f. Hans Hinderling, 1976, S. 301 ff.
 - 32b. Vorkämpfer der Strafreform. Eduard Nägeli. Lehrer des Rechts, Gestalter der „Neuen Weltanschauung“, Förderer der Künste, Vorkämpfer der Strafreform, zu seinem 70. Geburtstag, 1976, S. 57 ff.
 41. Urkundendelikte unter dem Aspekten der Wirtschaftskriminalität. SchwJZ 1980, S. 1 ff.

42. Der schweizerische Strafvollzug — eine empirische Untersuchung. Bericht über einen Vortrag vor der Österr. Gesellschaft für Strafrecht und Kriminologie. öJZ 1980, S. 267.
43. Drogenabhängige und die Probleme ihrer strafrechtlichen Behandlung. Univ. 1980, S. 1195 ff.
44. Computerbetrug. SchwZStr Bd. 98, 1981, S. 229 ff.

167. シュトレー (Walter Stree)
論文 (Aufsatz)
33. Gefährliche Körperverletzung. Jura 1980, S. 281 ff.

- 167a. テンクホフ (Jörg Tenckhoff)
著書 (Buch)
1. Die Wahrunterstellung im Strafprozeß, 1980 (Habilitation).

170. ティーデマン (Klaus Tiedemann)
著書・編著 (Bücher)
13. Multinationale Unternehmen und Strafrecht, 1980.
14. Die Neuordnung des Umweltstrafrechts. Gutachtliche Stellungnahme zu dem Entwurf eines Sechzehnten Strafrechtsänderungsgesetzes, 1980.
15. Kommentar zum GmbH-Strafrecht. Erläuterungen der §§ 82—85 GmbH u. erg. Vorschriften, 1980.
論文 (Aufsätze)
60. Stand und Tendenzen von Strafrechtswissenschaft und Kriminologie in der Bundesrepublik Deutschland. JZ 1980, S. 489 ff.
61. Strafbare Erschleichung von Investitionszulagen durch Aufhebung und Neuabschluß von Lieferverträgen. NJW 1980, S. 1557 ff.
62. Antitrust Law and Criminal Policy in Western Europe. L. H. Leigh (ed.), Economic Crime in Europe, 1980, p. 39 ff.
63. Examensklausur Strafrecht. Fall zu Spezialfragen des materiellen und Strafverfahrensrechts. Jura 1981, S. 24 ff.
64. Datenübermittlung als Straftatbestand. NJW 1981, S. 945 ff.
65. XIII. Internationaler Strafrechtskongreß 1984. Konzeption und Grundsätze des Wirtschaftsstrafrechts (einschließlich Verbraucherschutz). ZStrW Bd. 93, 1981, S. 1077 ff.
66. Die Bekämpfung des Mißbrauchs von internationaler Wirtschaftsmacht aus der Sicht

und mit den Mitteln des Strafrechts. Das Europa der zweiten Generation. Bd. 2, 1981, S. 629 ff.

171. トゥリフテラー (Otto Triffterer)

著書 (Buch)

6. Umweltstrafrecht. Einführung und Stellungnahme zum Gesetz zur Bekämpfung der Umweltkriminalität, 1980.

論文 (Aufsatz)

28. Können Mord-Gehilfen der Nationalsozialisten heute noch bestraft werden? Ein Beitrag zur Verjährung der Beihilfe. NJW 1980, S. 2049 ff.

172. ウルゼンハイマー (Klaus Ulsenheimer)

論文 (Aufsätze)

12. Die Verletzung der Protokollierungspflicht im Strafprozeß und ihre revisionsrechtliche Bedeutung. NJW 1980, S. 2273 ff.
13. Examensklausur Strafrecht (Mittäterexzeß, versuchte Erfolgsqualifizierung, Vermögensdelikte). Jura 1981, S. 149 ff.
14. Die strafrechtliche Haftung des Anästhesisten. Forensische Probleme in der Anästhesiologie, 1981, S. 41 ff.

172. ヴィルモウ (Bernhard Villmow)

論文 (Aufsätze)

6. Umfang und Struktur der Jugendkriminalität. H. Wollenweber (hrsg.), Kinderdelinquenz und Jugendkriminalität, 1980, S. 49 ff.
7. Villmow et al., Sozialwissenschaften im Strafrecht. KrimJ 1981, S. 164 ff.

173. フォークラー (Theo Vogler)

論文 (Aufsätze)

28. Immunität, Exterritorialität und Asylrecht im internationalen Strafrecht. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 1021 ff.
29. Rechtsschutz im Auslieferungsverfahren. EuGRZ 1981, S. 417 ff.

174. フォルク (Klaus Volk)

1980年冬学期に、ボッケルマンの後任としてミュンヘン大学教授となつた。
WS 1980 o. Professor München als Nachfolger von Paul Bockelmann.

著書 (Bücher)

2. Bewirtschaftung öffentlicher Mittel und Strafrecht, 1979.
3. Wahrheit und materielles Recht im Strafprozeß, 1980.

論文 (Aufsätze)

10. Nötigung durch Drohung mit Unterlassen. JR 1981, S. 274 ff.
11. Täuschung durch Unterlassen beim Betrug — OLG Köln, NJW 1980, 2336. JuS 1981, S. 880 ff.
12. Kriminalpolitik und Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. Polizei und Kriminalpolitik, 1981, S. 57 ff.

175. ハイッツ・ワーグナー (Heinz Wagner)

論文 (Aufsatz)

9. Vorlegung der Besetzungsrüge nach § 222a StPO und die Folgen. (Zugleich eine Besprechung des Urteils des 5. Strafsenats des BGH vom 4. 12. 1979.) JR 1980, S. 50 ff.

176. ヨアヒム・ワーグナー (Joachim Wagner)

著書 (Buch)

4. Politischer Terrorismus und Strafrecht im Deutschen Kaiserreich von 1871, 1981.
- 論文 (Aufsätze)
7. Terrorismus, Hochverrat und Abhörgezet. NJW 1980, S. 913 ff.
 8. Möglichkeiten und Grenzen bei der Toleranz gegenüber Rechtsbrüchen. Die Polizei 1981, S. 232 f.
 9. Die Aufgaben kriminologischer Forschung bei der Neuregelung der Bagatelkriminalität, insbesondere des Ladendiebstahls. Der Einfluß kriminologisch-empirischer Forschung auf Strafrecht und Strafverfahren, 1981, S. 27 ff.
 10. Kriminalpolitik aus der Sicht eines Journalisten. Polizei und Kriminalpolitik, 1981, S. 93 ff.

177a. ワルター (Michael Walter)

共編 (Buch)

3. Gerd Pomper — Michael Walter (Hrsg.), Ambulante Behandlung junger Straffälliger, 1980.

論文 (Aufsätze)

13. Möglichkeiten der ambulanten Behandlung karrieregefährdeter junger Straftäter — Eine Einführung in die Problematik. Ambulante Behandlung usw., op. cit., S. 9 ff.

14. Sanktionsmuster der jugendrichterlichen Praxis oder: Über den Umfang mit dem Erziehungsbegriff des Jugendgerichtsgesetzes. Ambulante Behandlung usw., op. cit., S. 16 ff.
15. Bestimmung der Freiwilligkeit beim Rücktritt vom Versuch. GA 1981, S. 403 ff.
16. Die subjektive Struktur der Handlung und Strafrecht. KrimJ 1981, S. 207 ff.

180. ウルリッヒ・ウェーバー (Ulrich Weber)

1981年夏学期に、ヴェルツブルグ大学教授となつた。

SS 1981 o. Professor Würzburg.

共著 (Bücher)

1. Arzt — Weber, Strafrecht. Besonderer Teil. H. 4: Wirtschaftsstraftaten, Vermögensdelikte (Randbereich), Fälschungsdelikte, 1980.
 2. Arzt — Weber, Strafrecht. Besonderer Teil. H 1: Delikte gegen die Person. 2. Aufl., 1981.
- 論文 (Aufsätze)
24. Grundsätze und Grenzen strafrechtlichen Schutzes des Urhebers und der verwandten Schutzrechte. Film und Recht 1980, S. 335 ff.
 25. Die Überspannung der staatlichen Bußgeldgewalt. Kritische Bemerkungen zur neueren Entwicklung des materiellen Ordnungswidrigkeitenrechts. ZStrW Bd. 92, 1980, S. 313 ff.
 26. Das Trède-Verfahren vor dem US Court for Berlin. De iustitia et iure, 1980, S. 751 ff.
 27. Zur strafrechtsgestaltenden Kraft des Zivilrechts. Festschr. f. F. Baur, 1981, S. 133 ff.
 28. Zur strafrechtlichen Erfassung des Musikdiebstahls. Festschr. f. W. Sarstedt, 1981, S. 379.

181. ウェルプ (Jürgen Welp)

論文 (Aufsätze)

7. Anwesenheitsrechte und Benachrichtigungspflichten. Bemerkungen zum Urteil des BGH v. 25. 5. 1979—2 StR 99/79, JZ 1980, 149 ff. JZ 1980, S. 134 ff.
8. Die Verteidigung. Bericht über einen Gesetzentwurf des Arbeitskreises Strafprozeßreform. Demokratie und Recht, 1980, S. 39 ff.
6. Zufallsfunde bei der Telefonüberwachung. Jura 1981, S. 472 ff.

182. ウェルツェル (Hans Welzel)

Nekrologe: Gerd Kleinheyer — Friedrich Nowakowski, In Memoriam Hans Welzel. Reden, gehalten am 10. Februar 1978 bei der Gedenkfeier der Rheinischen Friedrich-Wilhelms-Universität Bonn, 1981.

185b. ヴォルター (Jürgen Wolter)

1981年夏学期に、ハイデルベルヒ大学教授となった。

WS 1981 o. Professor Heidelberg.

論文 (Aufsätze)

6. Schuldinterlokt und Strafzumessung. Rechts- und Sozialstaat, Rechts- und Sozialwissenschaften im Strafprozeß. GA 1980, S. 81 ff.
7. Contra „in dubio pro reo“. MDR 1981, S. 441 ff.
8. Untersuchungshaft, Vorbeugungshaft und vorläufige Sanktionen. ZStrW Bd. 93, 1981, S. 452 ff.

186a. ツィーリンスキー (Diethart Zielinski)

1941年8月30日に、ベルリンで生まれた。1964年から70年まで、ボン大学のアルミン・カウフマンの助手を勤め、1970年に、ビーレフェルト大学でフィードラー教授の助手、1971年から76年まで、再びボン大学の助手となった。1972年に学位を取得した。Handlungs- und Erfolgswert im Unrechtsbegriff, 1973による。1976年に、ハノーバー大学教授に就任した。

Geboren am 30. August 1941 in Berlin. 1964—1970 wissenschaftliche Hilfskraft bei Armin Kaufmann, Bonn. 1970—71 wissenschaftlicher Assistent bei Fiedler, Bielefeld. 1971—1976 wissenschaftlicher Assistent der Universität Bonn bei Fiedler und Armin Kaufmann. 1976 Berufung zum Professor am Fachbereich Rechtswissenschaft der Univ. Hannover.

論文 (Aufsätze)

1. Die juristische Bundesdatenbank als rechtspolitisches Problem. Kritische Anmerkungen zum 1. Zwischenbericht über die Arbeiten der Projektgruppe Juristisches Informationssystem. JZ 1971, S. 409 ff.
2. Das legislatorische Problem „Datenschutz“ aus strafrechtlicher Sicht. Datenschutz 1973, S. 129 ff.
3. Das juristische Informationssystem. Datenschutz im Recht, 1973, S. 36 ff.
4. Geld- und Wertzeichenfälschung nach dem Entwurf eines Einführungsgesetzes zum Strafgesetzbuch (EGStGB). JZ 1973, S. 193 f.

5. Rechtsinformatiker (in)formieren sich. öffVerwaltung und Datenverarbeitung 1974, S. 403 ff.
6. Literaturschau: Rechtsinformatik. JuS 1976, S. 616 ff., 1977, S. 136 ff.

187. ツィップ (Heinz Zipf)

著書 (Buch)

- 3a. Kriminalpolitik. Ein Lehrbuch, 1980.

論文 (Aufsätze)

24. Der strafrechtliche Schuldbegriff. JBl. 1980, S. 186 ff.
25. Stand der wissenschaftlichen Kriminalpolitik und ihre Bedeutung für die Polizeipraxis. Polizei und Kriminalpolitik, 1981, S. 19 ff.
26. Probleme der versuchten Bestimmung zu einer Straftat. Strafrechtl. Probleme der Gegenwart. Heft 8, 1981, S. 143 ff.